

江差町 歴史文化 基本構想



平成29年3月
江差町

江差町歴史文化基本構想

平成29年3月

江差町

序 文

江差町は、国指定重要文化財である旧中村家住宅をはじめ、道指定無形民俗文化財であり半世紀以上に亘って全国大会を開催している民謡の江差追分などの指定文化財を有しています。

また、文化財の指定を受けていなくとも、江差町の歴史文化に根ざした有形・無形の文化遺産が数多く伝わっています。

これら江差町の文化遺産は、江差に暮らす人々の郷土愛によって継承されてきていますが、少子化の影響や生活スタイルの多様化などによって少しずつ失われていることも事実です。

そのような中、江差町では「古くて新しいまち江差」をまちづくりのテーマとして掲げ、江差町の歴史や文化、伝統の魅力を徹底的に追求してまちづくりを行なう取り組みを行なっています。

この「江差町歴史文化基本構想」は、江差町が進めているまちづくりの一環として、地域に伝わる様々な文化遺産を保存・活用していくマスタープランとして策定いたしました。

今後、この構想を町民のみなさんと一緒に具体化していくことによって、歴史文化がさらに暮らしの中に溶け込むまちづくりが進むことを確信しています。

最後に、文化庁をはじめ、江差町歴史文化基本構想策定委員会・調査部会のみなさまなど、本構想の策定にご指導、ご協力をいただきました方々に深く感謝を申し上げます。

平成29年3月

江差町長 照井誉之介

目次

第1章 構想策定の目的と体制

- 1-1 構想策定の背景と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 1-2 江差町の諸計画との関係と将来像・・・・・・・・・・ 3
- 1-3 策定の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 1-4 策定の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第2章 江差町の文化遺産と歴史文化の特徴

- 2-1 江差町の自然環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 2-1-1 江差町の位置と自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 2-1-2 江差町の地勢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 2-1-3 江差町の動植物・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 2-2 江差町の歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - 2-2-1 縄文時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - 2-2-2 続縄文時代～擦文時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 - 2-2-3 中世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 2-2-4 近世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - 2-2-5 箱館戦争・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 2-2-6 近代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 2-3 現在の江差町・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 2-3-1 人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - 2-3-2 交通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - 2-3-3 産業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 2-4 これまでの文化財調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
 - 2-4-1 指定文化財・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
 - 2-4-2 過去の調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 2-5 構想策定における文化遺産調査・・・・・・・・・・ 27

2-5-1	調査部員による調査	27
2-5-2	町民アンケート	27
2-5-3	「まちなか発見」活動	27
2-5-4	シンポジウム	28
2-5-5	町担当者による調査	29
2-5-6	北海道観光学高等研究センターによる調査	30
2-5-7	文化遺産調査の現状と課題	32
2-6	江差町の歴史文化の特徴	34
2-6-1	歴史文化の特徴	34
2-6-2	文化財把握の方針	36
第3章	文化遺産保存・活用の基本方針	
3-1	基本理念	38
3-2	基本理念を実現するための方策	41
第4章	関連文化財群	
4-1	関連文化財群の考え方	48
4-2	見出した「宝箱」、江差追分	50
第5章	歴史文化保存活用区域	
5-1	歴史文化保存活用区域の考え方	53
5-2	歴史文化保存活用区域の設定	54
第6章	保存活用計画	
6-1	保存活用計画の考え方	55
第7章	文化遺産保存・活用のための体制の整備	
7-1	保存活用のための体制の考え方	57
第8章	構想の実現へ向けて	59

【資料】

第1章 構想策定の目的と体制

1-1 構想策定の背景と目的

江差町には、縄文時代の遺跡、鎌倉時代から室町時代の伝説、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁と北前船による交易に関する資料や史跡、交易に伴う文化の移入によって伝わった民俗芸能の伝承、また町域南部に広がるヒノキアスナロ（ヒバ）林、厚沢部川流域の沖積平野で江戸時代末から行なわれた稲作など、自然や歴史の中で育まれてきた豊かな文化遺産があります。

江差町ではこのような文化遺産をまちづくりに活かしていくため、平成23年に策定した「第5次江差町総合計画」(平成23年～平成32年)の中で、10年後に目指す町の姿として掲げた5つのまちづくりの目標のひとつに「歴史や文化を大切にし、住んでいる人が郷土に誇りを持っている町」を明示しました。

そのような中、江差町では平成27年度の町政執行方針として「古くて新しいまち江差」を掲げました。

「古くて」とは、江差追分や姥神大神宮渡御祭・いにしえ街道・農漁業など、江差の歴史や文化、伝統の魅力を徹底的に追求するまちづくりを表し、「新しい」とは、若者や子育て世代が江差を「かっこいいまち」と感じ、江差に住みたい、江差へ遊びに行きたいというまちづくりを表します。

その町政執行方針を受け、平成28年に江差町教育委員会で策定した「江差町教育推進計画」(平成28年～平成32年)では、計画期間中のテーマとして「ふるさ



第5次江差町総合計画
2011年～2020年

- 1 まちづくりの目標**
(1) 10年後にめざす町の姿
10年後の江差町の姿としてめざすことを示すと、次のとおりです。
- 一人ひとりを大切にし、みんなが地域で輝いている町。**
まちの個性が町内外に発信され、一帯に波及していき、江差町に属する人々や、住居の周辺に対する愛着が深まる町が実現できている。
- 人口減少社会の中でも、住んでいる人が、楽しく幸せを感じる町。**
住んでいる人が楽しく、充実した生活を送る町となる。安心して生活でき、若い世代も、安心して子育てできている。
- ちいさな幸せをコツコツとみんなで生み出す町。**
住んでいる人が、お互いのことを思い、協力しあい、町のみんなが力を合わせて、まちづくりの目標を達成している。
- 歴史や文化を大切にし、住んでいる人が郷土に誇りを持っている町。**
お祭り、江差漁舟、組土芸館、文化財などを大切に、郷土に誇りを持ち、地域に貢献した人材育成、後継者の育成などに取り組んでいる。
- 身の丈に合わせた行政運営が行われている町。**
「身の丈」(財政規律・住民負担)に合わせた財政規律、行政運営の抜本的なまちづくりを実施している。

「第5次江差町総合計画」



江戸時代から町民によって引き継がれている姥神大神宮渡御祭

と江差に心の向く教育の推進」を掲げ、学校教育と社会教育共通のテーマとしました。

さらに江差町では、政府が施策として進めている地方創生のなかで、平成28年3月に「江差町人口ビジョン」と「江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、今後目指すべき将来の方向性を提示しました。

これらの背景を踏まえて、江差町では「江差町歴史文化基本構想」を策定することとしました。

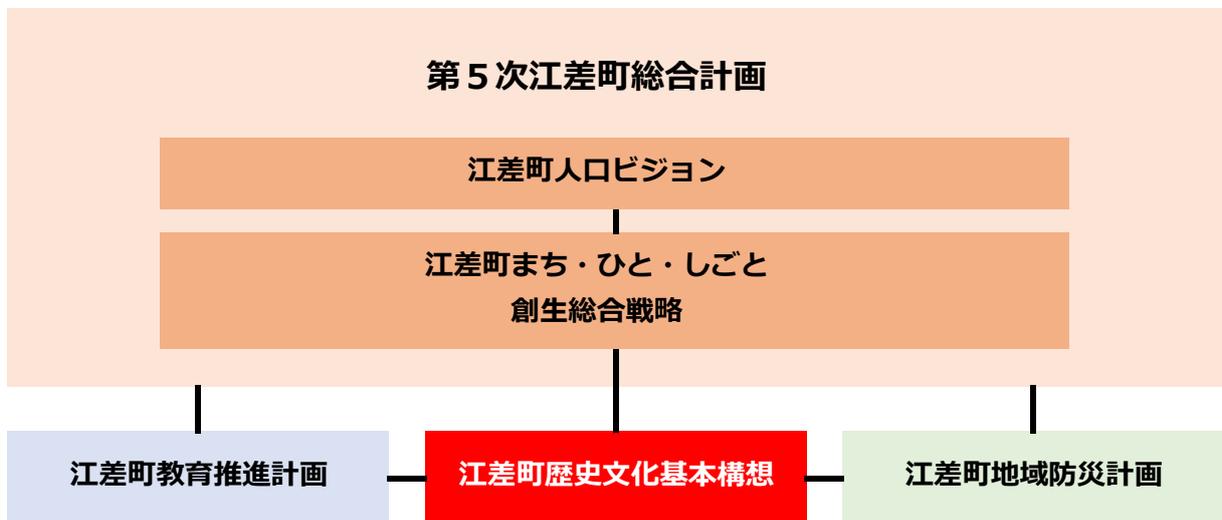
歴史文化基本構想とは、「地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な構想となるもの」（平成24年 文化庁文化財部『「歴史文化基本構想」策定技術指針』）であり、策定することによって、地域の文化遺産の特徴を捉え、関連文化財群や歴史文化保存活用地区の設定を行い、地域にある文化遺産の保存・活用を進めるためのマスタープランとするものです。

江差町では「江差町歴史文化基本構想」を策定することにより、古くから継承されてきた地域の歴史文化を見つめ直し、総合的な文化遺産の保存・活用を行いながら、地域の活性化に繋げていきたいと考えています。

1-2 江差町の諸計画との関係と将来像

現在、江差町で策定している計画としては、「第5次江差町総合計画」（平成23年（2011）～平成32年（2020））、「江差町人口ビジョン」（平成28年（2016）策定）、「江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成28年（2016）策定）、「江差町教育推進計画」（平成28年（2016）～平成32年（2020））、「江差町地域防災計画」（平成22年（2010）策定）があります。

「江差町歴史文化基本構想」は、これらの諸計画との整合性を図りながら策定を進めました【図表1】。



【図表1】江差町の諸計画模式図

「第5次江差町総合計画」は江差町の最上位計画で、平成23年（2011）から10年間にわたる総合的なまちづくりの基本構想・基本計画から構成されています。基本構想では「10年後にめざす町の姿」として5項目を挙げていますが、その中に「歴史や文化を大切にし、住んでいる人が郷土に誇りを持っている町。」という項目を掲げています。

「江差町歴史文化基本構想」においても、「第5次江差町総合計画」の基本構想を念頭に入れて議論を進めていきました。

平成26年（2014）に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、急速な少子高齢化、人口減少、東京圏への過度な人口集中に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げるための方策が採られることとなりました。

それにあわせて、江差町では平成28年3月に、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示する「江差町人口ビジョン」と「江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この考え方は、「第5次江差町総合計画」のうち、人口減少克服と地方創生に特化した戦略をパッケージ化したものです。

「江差町まち・ひと・しごと総合戦略」では、地域を支える若者世代（20歳～40歳）の社会減少を抑止することを最重要課題として、ゴールを「“故郷”を目指す若者が集うまち、江差」としました。そのために、生活基盤を支える仕事づくりやU I Jターンをしやすい環境を整えるとともに、江差町の文化や風習、地域資源を維持・創造・継承していく人材を育成していくことで、将来にわたり持続するまちづくりを進めていくこととしています。

基本目標として3項目を掲げていますが、その中のひとつ「江差文化体験交流づくりで仕事をつくる」では、観光ブランドの推進策の取り組み手段として「江差町歴史文化基本構想」が位置づけられています。

平成28年（2016）に策定された「江差町教育推進計画」は、平成32年（2020）年までの5年間にわたる江差町の学校教育と社会教育について、「第5次江差町総合計画」の考え方を踏まえながら計画策定したものです。

その中で、江差町教育目標として「美しい自然と歴史・文化・郷土愛を受け継ぎ、心豊かに学び、郷土江差の未来（あす）を拓くたくましい江差人づくり」を目指し、5年間のテーマとして「ふるさと江差に心の向く教育の推進」を掲げました。

「江差町歴史文化基本構想」の策定においても、この目標とテーマを念頭に入れて議論を進めてきました。

平成22年（2010）に策定された「江差町地域防災計画」は、江差町の災害予防、災害応急対策、災害復旧などの災害対策についてまとめられています。その中で、江差町教育委員会の事務・業務のひとつとして「災害時における文教施設及び文化財の保全対策に関すること」が掲げられています。しかし、事務・業務につい



江戸時代から江差に伝わる民謡「江差追分」を取り入れた授業は、全小中学校で行なわれています

での具体的な記述はなされていません。

江差町では過去にも、寛保元年（1741）に起こった渡島大島の噴火にともなう津波被害や、平成5年（1993）に起こった北海道南西沖地震による被害などを経験しています。突然起きる災害に対する備えをしておくことが求められます。

予防については、指定文化財への自動火災報知機や消火器の設置を進め、定期点検の指導や消防訓練の充実を進めていきます。また、建造物については耐震診断の受診を促していきます。

災害が起こってしまった際の応急対策や復旧については、災害の内容や規模によって様々な想定が考えられます。現在では細かな想定ができていません。生命や身体の保護を第一に考えながら、併せて文化遺産の保全を図る方策を検討します。

後述をしますが、町内の文化遺産については、その文化遺産を見守って担う人や団体とセットでのデータベース化を進めていきます。防犯の取り組みは、文化遺産を担う人や団体が行なう日常的な維持や管理と関連付けて図っていきます。

1-3 策定の体制

「江差町歴史文化基本構想」を策定するにあたり、学識経験者・町民・行政が一体となって策定を取り進めるために、「江差町歴史文化基本構想策定委員会設置要綱」を定めました（【資料1】）。

この要綱で、「江差町歴史文化基本構想」策定の目的が江差町内に所在する文化財を総合的に捉えたうえで、地域づくりのために積極的な保存・活用を図るためのマスタープランであること、日本遺産への申請に向けたものであることを明記しました。さらに、この要綱に基づいて「江差町歴史文化基本構想策定委員会」を設置しました。

また、要綱中に定めている町内に所在する文化財の調査・把握を専門的に行うために、「江差町歴史文化基本構想調査部会」を置きました（【資料2】）。

1-4 策定の経過

「江差町歴史文化基本構想」策定にあたり、前記の通りに「江差町歴史文化基本構想策定委員会」を設置して作業を進めました。

平成27年8月3日に第1回の委員会・調査部会を合同開催し、9回の策定委員会と11回の調査部会を開催しました（【資料3】）。



江差町歴史文化基本構想策定委員会の様子

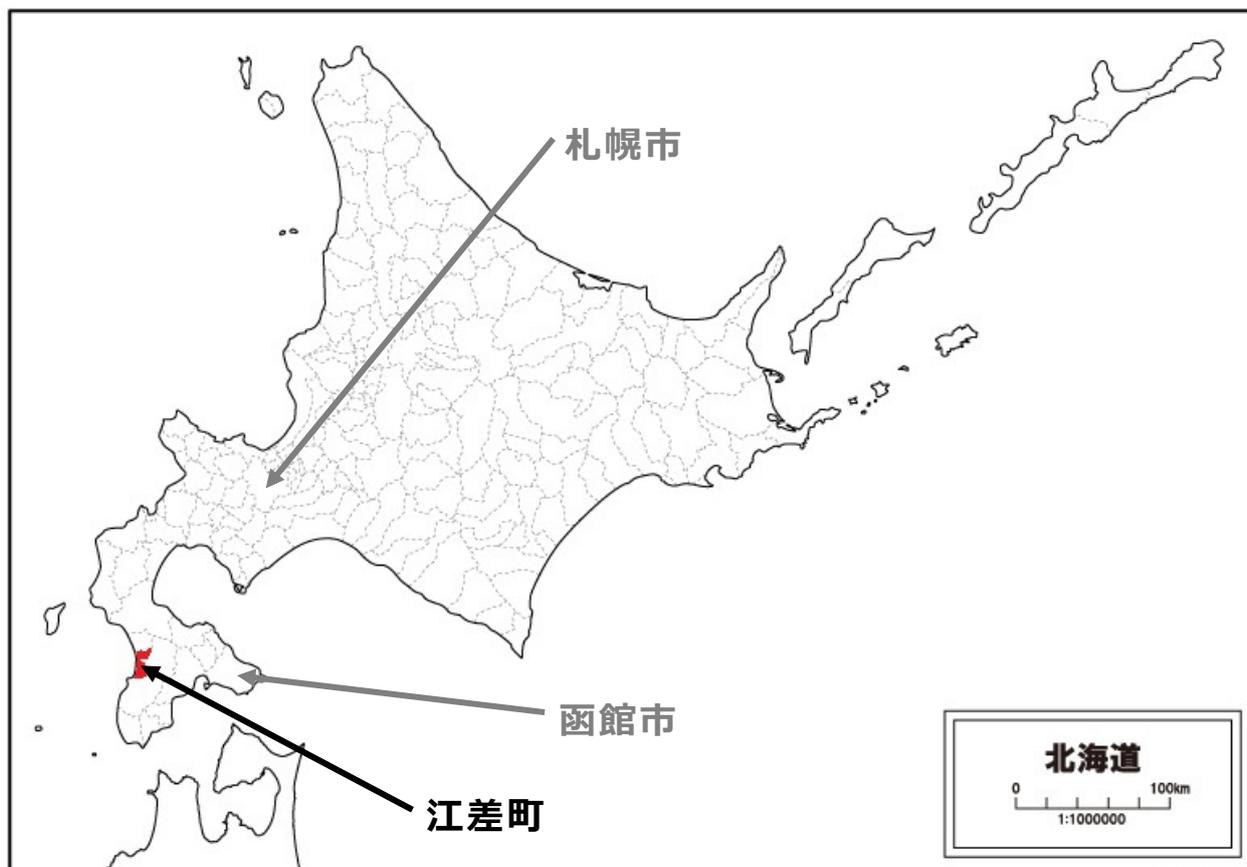
第2章 江差町の文化遺産と歴史文化の特徴

2-1 江差町の自然環境

2-1-1 江差町の位置と自然

江差町は、北海道南西部の渡島半島西海岸に位置する面積 109.57k m²の町です。

【図表2】町域の西側は日本海に面し、北部は乙部町、東部は厚沢部町、南部は上ノ国町に接しています。



【図表2】江差町の位置

気候【図表3】は、日本海を流れる対馬海流の影響があり、北海道の中では比較的温暖です。

平成19年から平成28年にわたる10年間の気候を見てみると、降水量の平均は1,243.6mm、気温の平均は約10度ですが、最高気温は30度を越え、最低気温はマイナス10度を下回ることもあります。

降雪量の平均は約2mですが、最深積雪の平均は約24cmで雪かきに困るほど

ではありません。

江差町の気候の特徴として、冬季の強風が挙げられます。6月から8月の平均風速は2 m半ばですが、12月から1月の平均風速は7 mを越えます。北西の海から吹きつけるこの風は、古くから「たば風」と呼ばれています。

年		降水量 合計	平均 気温	最高 気温	最低 気温	降雪 合計	最深 積雪	平均 風速	最大 風速	最大 瞬間 風速
		(mm)	(度)	(度)	(度)	(cm)	(cm)	(m/s)	(m/s)	(m/s)
平成19年	2007年	958.0	10.6	29.4	-5.9	122	8	4.6	19.4	30.1
平成20年	2008年	1,181.0	10.4	28.9	-8.6	169	27	4.4	20.2	29.7
平成21年	2009年	1,391.5	10.2	29.7	-7.0	220	14	4.5	21.0	33.9
平成22年	2010年	1,463.5	10.7	31.7	-10.9	262	21	4.6	21.4	30.8
平成23年	2011年	1,197.5	10.1	30.9	-9.5	134	28	4.9	21.5	32.6
平成24年	2012年	1,223.0	10.3	33.6	-9.8	298	45	4.6	23.6	31.2
平成25年	2013年	1,520.0	10.4	29.5	-7.9	274	38	5.0	22.8	31.9
平成26年	2014年	992.0	10.2	30.5	-11.6	207	22	4.8	20.6	31.9
平成27年	2015年	1,298.5	10.9	29.2	-7.3	134	16	4.7	21.7	32.5
平成28年	2016年	1,210.5	10.4	31	-6.9	212	25	4.9	22.6	33.6
平均値		1,243.6	10.4	30.44	-8.5	203	24.4	4.7	21.5	31.8

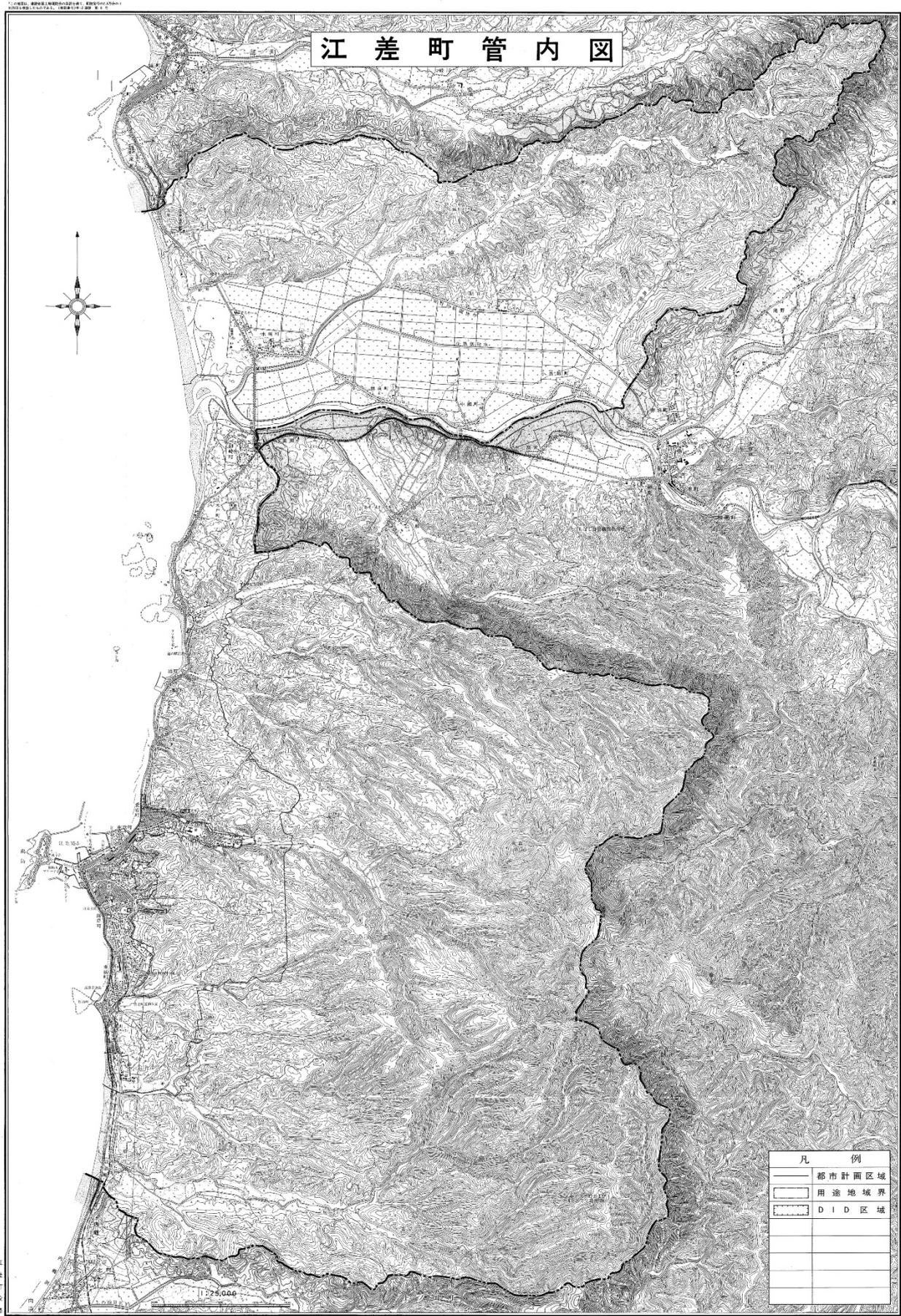
【図表 3】 江差町の気候

2-1-2 江差町の地勢

江差町域の西側は日本海に面し、東側は山地となっています。東側の山地には、笹山（611m）、元山（522m）などの低山が連なり、西側を下る緩やかな丘陵地となって日本海に続いています。この丘陵地には、海から吹く西風を活かして大型の風車が設置されています。

町域内には、北部から厚沢部川、田沢川、泊川、豊部内川、茂尻川、五勝手川、古櫃川、椴川などの河川が西流しています。このうち厚沢部川の下流には、沖積平野が広がっていて、江戸時代末以降に水田が開墾されていきました。

江差町の市街地は、沖に浮かぶ標高約30 mの鷗島と向かい合った豊部内川と茂尻川に挟まれた丘陵地の海岸線に沿って発展していきました。



【図表 4】江差町全図

2-1-3 江差町の動植物

北海道の中でも比較的温暖な江差町では、南方系と北方系の植物の混在を確認することができます。

国指定天然記念物にもなっている「ヒノキアスナロ及びアオトドマツ自生地」は、東北地方から北海道南部にかけて分布しているヒノキアスナロと、サハリンから北海道にかけて分布しているアオトドマツの混合林です。ヒノキアスナロは、江戸時代に松前藩が管理して伐採を行なっていました。

また、町域の西側が日本海に面していることから、ハマナス・ハマヒルガオ・ハマボウフウなどの海浜植物も分布しています。

ヒノキアスナロは町木に、ハマナスは町花に指定されています。



ヒノキアスナロの葉



ハマナスの花

市街地と山林が隣接している江差町では、まれに町中にキタキツネ・エゾタヌキ・ヒグマ・エゾシカなどが出没します。

特にヒグマとエゾシカは、農作物への食害や人的被害など、人々の生活への影響力が少なくありません。

2-2 江差町の歴史

2-2-1 縄文時代

約1万5000年前に始まった縄文時代は、現在と比べて気候が温暖でした。江差町内では、海岸線や町域北部の丘陵地に縄文時代の遺跡が数多く確認され、54件の縄文時代の遺跡が包蔵地として登録されています。

江差町南部の椴川遺跡からは、道南地域における縄文時代前期（約6000～5000年前）の標式土器となっている椴川式土器がみつかっています。椴川式土器は口縁が平らで筒形が多く、胎土に繊維を含んでいます。

また、江差町市街地の丘陵地にある縄文時代前期から中期（約6000～4000年前）の茂尻C遺跡からは、多数の住居跡と、東北北部から北海道南西部にかけて分布する円筒土器や石器類が多く出土しています。

茂尻C遺跡の周辺も縄文時代の遺跡が確認されており、一帯が大規模な集落跡だった事がうかがえます。



椴川式土器



茂尻C遺跡出土の円筒上層土器

2-2-2 続縄文時代～擦文時代

本州では、約2,300年前に本格的な稲作を行う弥生時代が始まりましたが、寒冷な気候であって北海道では稲作を行うことができず、縄文時代が続いていました。この時代を続縄文時代といいます。

江差町内では調査は行われていませんが、鷗島の島上に続縄文時代の遺跡が確認されています。戦時中、島上を耕作地とした際に島の全面から続縄文時代の土器がみつかりました。

続縄文時代の後、600年代から1100年代にかけては、これまでの土器や石器が使われなくなり、本州の土師器に似た土器や鉄器類が使用されるようになります。この土器は整形時に、表面を木のへら等で擦り整えていることから、擦文土器と呼び、この時代を擦文時代と呼んでいます。

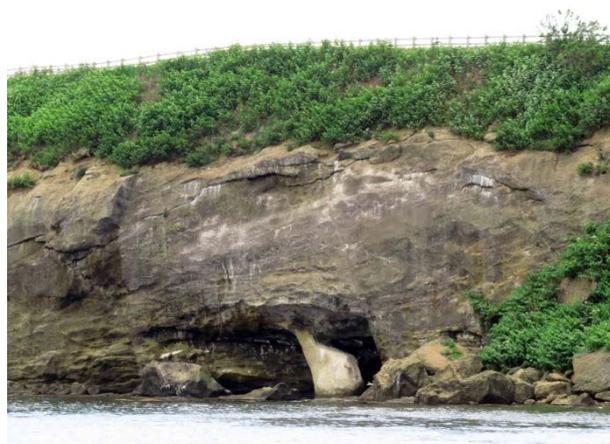
江差町内には3件の擦文時代の遺跡が確認されていて、法花寺坂貝塚遺跡では、土器や金属器、貝などがみつかっています。

2-2-3 中世

鎌倉時代から安土桃山時代にかけての江差町は、町内に史料や遺跡が確認されていないこともあり、はっきりとした姿が見えていません。しかし、町外や近世の史料、伝説などから推し量ることができます。

平安時代末に平泉（岩手県）を拠点に勢力を張っていた奥州藤原氏が源氏に滅ぼされると、その残党が津軽海峡を渡って渡島半島に逃れたという伝承があります。また、衣川（岩手県）で自刃した源義経は生き延びており、同様に津軽海峡を渡って江差に逃れたという伝承があります。

江差市街地の沖に浮かぶ鷗島には、源義経の愛馬が岩に化したという「馬岩」や、源義経に従って江差にやってきた武蔵坊弁慶の付けたという「弁慶の足跡」など、伝説にちなんだ場所が伝わっています。「馬岩」は、江戸時代末に描かれた鷗島の絵図にも描かれていて、当時から認識されていたがうかがえます。



断崖下の白い岩が「馬岩」

室町時代、渡島半島の海岸線には、本州から渡ってきた武士たちがいくつもの城を築きました。その城のことを館と呼び、主な12の館は「道南十二館」と総称されています。武士たちは、各館を拠点にして交易活動を行っていました。

江差町南部に接する上ノ国町には、蠣崎氏により勝山館が築かれましたが、その出城としての泊館が江差町中央部の泊地区に築かれ、蠣崎一族が館主となりました。

また室町時代には、下野国小山（栃木県小山市）を出自とする小山隆政が渡来し、江差町中央部の尾山地区を拠点としていたとの伝承があり、現在でも尾山地区の祭

礼山車には小山隆政の人形が乗せられています。

江戸時代初期の史料を見ても、江差町内で人口が集中している地域は、現在の江差市街地ではなく、市街地北部の泊地区・尾山地区・田沢地区です。

中世期はこれらの地域で人々の営みが盛んであったことがうかがえます。

小山隆政を模したという祭礼人形



2-2-4 近世

中世蝦夷地の動乱を勝ち抜いた蠣崎氏は、福山城（松前城）を拠点とし松前と改氏しました。慶長9年（1604）、松前慶広は徳川家康から黒印状を拝領し、蝦夷地におけるアイヌとの交易権を認められます。

江戸幕府から蝦夷地の支配を認められた松前藩でしたが、寒冷な気候では稲作などの農業を行うことができませんでした。そこで松前藩は、蝦夷地で生産される海産物の交易を管理し、松前・箱館・江差の三港を交易港に指定して沖ノ口役所を置き、船・交易品・交易者などに税金を掛けて収入を得ていました。



江差港の北前船

江差では、17世紀後半からニシン漁が盛んになり、人々の集住が進んでいきました。また、延宝6年（1678）にはヒノキアスナロ伐採を管理する松前藩の檜山番所が江差に設置され、東北地方から柚夫が移り住んできました。このヒノキアスナロは、江差ではヒノキと呼ばれており、明治時代には檜山郡という地名の基にもなりました。

交易が盛んになってくると、本州から多くの商人が江差に移り住み、町家が形成されていきました。この町なみは、現在「いにしえ街道」と呼ばれています。

江差からはニシン加工品などの海産物が出荷され、本州からは米・酒・塩・衣類などの生活用品が入荷しました。

交易による人々の交流は文化の移入ももたらし、町内各地に伝わる鹿子舞や「江

差追分」など今日にまで伝わっている民俗芸能の基礎が形づくられました。

また、江差町域北部の厚沢部川流域では、松前藩が幕末期に本州から農夫を移住させて水田耕作を行い、今日にまで引き継がれています。



江戸時代からの町なみ



町内南部に伝わる五勝手鹿子舞

2-2-5 箱館戦争

慶応3年（1867）の大政奉還と王政復古の大号令を経て、翌年に戊辰戦争が始まると、全国の諸藩は新政府側と旧幕府のどちらに付くかの判断を迫られました。

松前藩は、奥羽越列藩同盟に参加していましたが、明治元年（1868）に藩内の正義隊がクーデターを起こして藩論を変え、新政府側に付くこととなりました。

本州では戊辰戦争の戦いが広がり、明治元年（1868）8月には榎本武揚などが旧幕府軍艦の開陽丸などを率いて江戸を出て、10月に蝦夷地へ上陸し、松前藩などの新政府軍との間で箱館戦争が起こりました。



復元された開陽丸



戦死した新政府軍の墓地

旧幕府軍は、箱館・松前や館城を攻め落として江差へと進軍しましたが、暴風雪

により江差沖で開陽丸が座礁・沈没しました。

この年の戦いは旧幕府軍が勝ちましたが、翌明治2年（1869）4月に新政府軍が青森から攻め寄せ、先に落とした江差を拠点にして松前や箱館を攻略していきました。戦いで死亡した新政府軍兵士は江差に運ばれて埋葬されました。その埋葬地が現在の檜山護国神社です。

戊辰戦争最後の戦いである箱館戦争は、5月に榎本武揚が降伏して終わりました。

2-2-6 近代

明治2年（1869）、版籍奉還によって館藩が誕生し、江差は館藩が管轄することとなりました。明治4年（1871）には廃藩置県によって館県となりましたが、同年9月に館県は弘前県（後に青森県）に併合されました。その後、明治5年（1872）には開拓使の管轄地に戻されています。

明治33年（1900）、江差市街地の26町（東新町・北新町・中新町・川原新町・片原町・詰木石町・豊部内町・九艘川町・中歌町・姥神町・津花町・浜茂尻町・酒田町・新地裏町・新地町・法華寺町・上野町・佐平治町・阿弥陀寺町・切石町・影ノ町・沢茂尻町・中茂尻町・小平沢町・碓町・寺子屋町・）と五勝手村が合併し、江差町が誕生しました。

明治39年（1906）、泊村・田沢村・伏木戸村・柳崎村・鹹川村・小黒部村が合併し、泊村が誕生しました。

昭和30年（1955）、江差町と泊村が合併し、現在の江差町が誕生しました。

ニシン漁は明治時代までは行われていましたが、大正時代にニシンの回遊が見られなくなってしまいました。

交易も、明治時代になって政治の仕組みが変わると沖ノ口役所が廃止され、江差の経済は振るわなくなってきました。江差港に新たな築港を建設することによって商船を取り戻そうという活動が行われましたが、交易システムの変化もあり、昭和4年（1929）に完成した江差港は漁港としての姿でした。

昭和11年（1936）には、明治時代から様々な鉄道敷設運動を行ってきた結果、国鉄江差線が全通して江差駅が置かれました。江差線は、旅客だけではなく、地域の貨物も運送する交通手段でしたが、江差一木古内間の貨物輸送も行なわれなくなり、平成26年（2014）5月11日の運行をもって廃線となりました。

そのような中、江戸時代からの歴史や文化を活かして地域アイデンティティーを醸成していく動きがありました。

昭和38年（1963）に第1回が開催された江差追分全国大会は、それから毎年開催されて50回を超え、町内はもとより日本全国さらに海外からも参加者が集う規模に成長しました。

また、昭和61年（1986）には、江差の若者たちが兵庫県で復元された北前船辰悦丸を江差へ回航させようと企画しました。この企画は実現して、辰悦丸は淡路島から瀬戸内海を西へ向かい、関門海峡を経て日本海を北上し、様々な港に停泊をしながら江差港に入港しました。



江差港に入港した辰悦丸

この出来事は、江差の若者が抱いた想いに、江差だけでなく日本中の人々が共鳴して広がっていったものです。

この様な想いは、現在に受け継がれています。毎年5月には、かつて江差で行なわれていた花嫁行列を復活させて実施しています。現在でも婚礼時に唄われる長持唄に合わせてながら、実際に結婚したカップルはもちろん、歌い手、傘持ちなども和装のいでたちで行列をし、観光客にも喜ばれています。

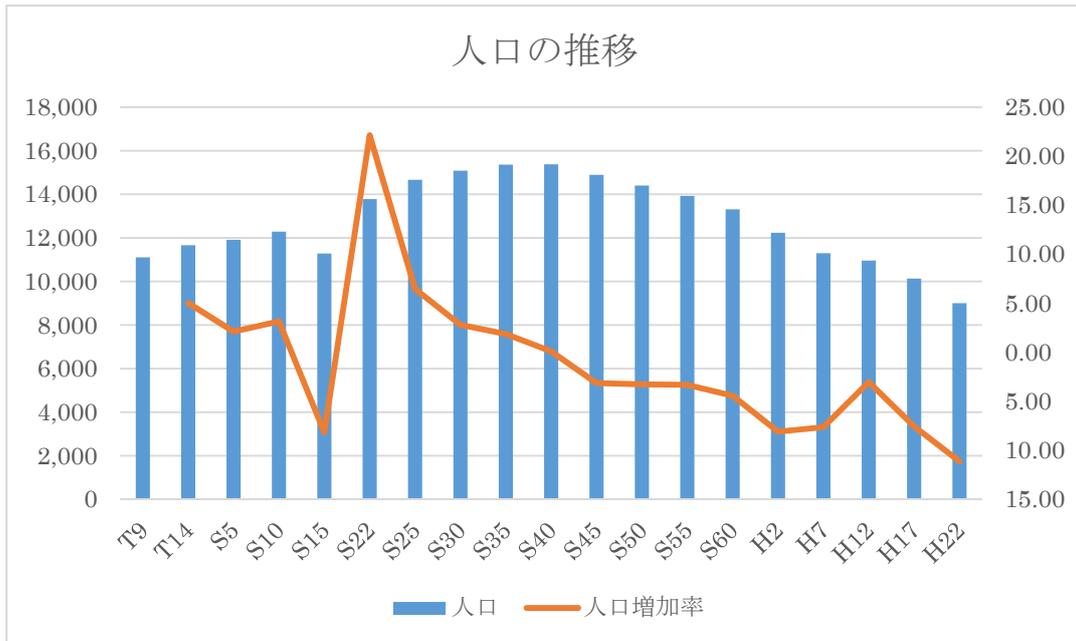


復活した花嫁行列

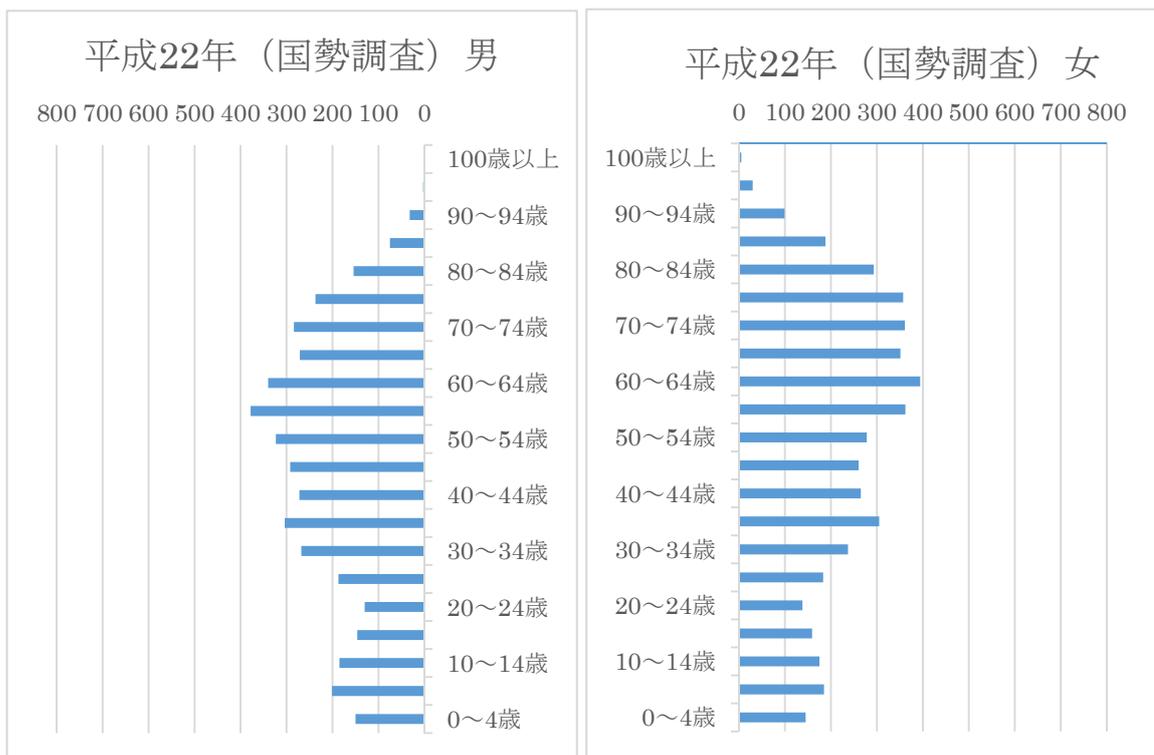
2-3 現在の江差町

2-3-1 人口

昭和30年（1955）、江差町と泊村の合併時には15,000人を越えた人口も、昭和36年（1961）の16,918人をピークに減少が続いており、平成27年12月末での人口は8,084人です【図表5】。



【図表5】 江差町の人口推移



【図表6】 江差町の人口ピラミッド

平成22年（2010）国勢調査による人口ピラミッド【図表6】を見ると、20歳から24歳の人口がもっとも少ないことがわかります。これは、少子高齢化が進んでいることに加え、高校卒業後に進学や就職の機会を求めて札幌市や函館市などの他地域へ人口流出が続いていることなどが要因と考えられます。

また、国立社会保障・人口問題研究所によると、江差町の人口は今後も減少を続け、2060年には2,534人となると推計されています。

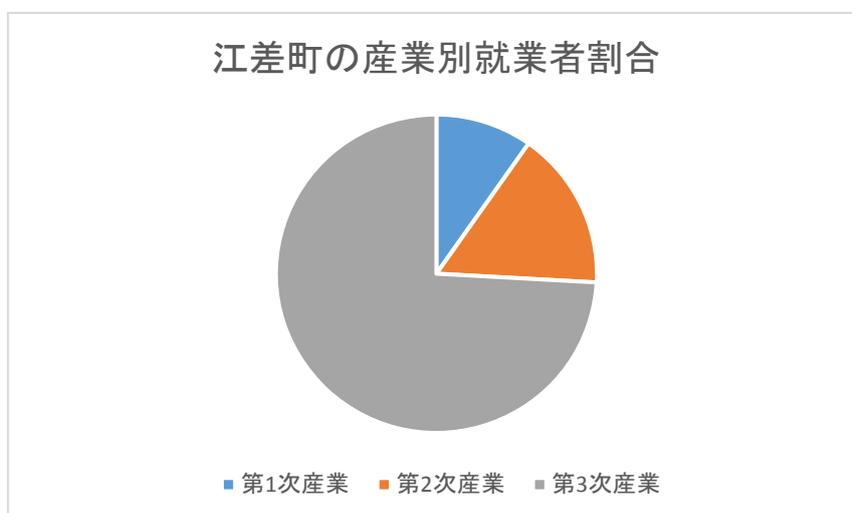
2-3-2 交通

主要な道路は、函館市を基点とし渡島半島を横断して江差町で終点となる国道227号、同じく函館市を基点とし渡島半島の海岸線を経由して江差町で終点となる国道228号、小樽市を基点とし日本海沿岸を通過して国道227号と交わる江差町で終点となる国道229号、江差町を基点とし国道229号と重複しながら八雲町熊石地区で分岐して国道5号と合流する八雲町立石地区で終点となす国道277号があります。

江差町への公共交通機関は、JR江差線が平成26年（2014）に廃線となってからはバス交通のみで、JR函館駅から約2時間、JR新函館北斗駅から約1時間20分です。

2-3-3 産業

平成22年度の国勢調査によると、江差町の3部門別就業者数3,918名の内、第1次産業で382人、第2次産業で632人、第3次産業で2,904人です。



【図表7】江差町の産業別就業者割合（平成22年度国勢調査）

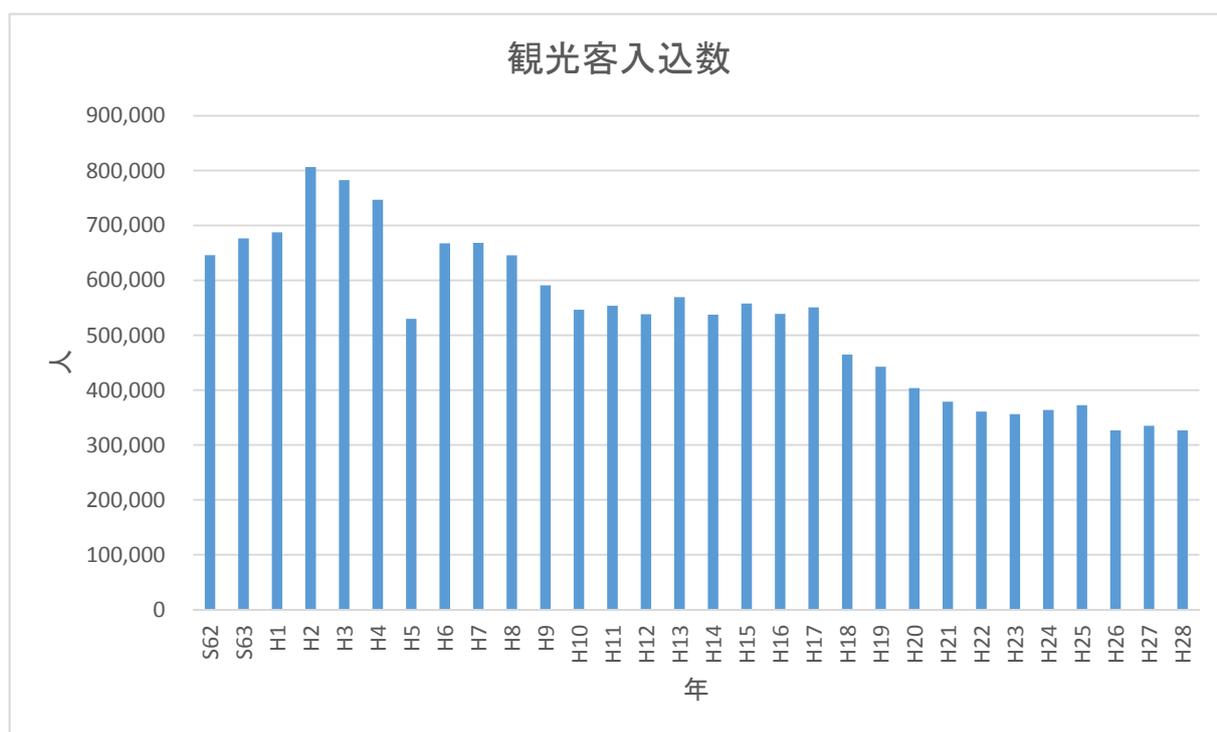
就業者数の75%近くが第3次産業に従事しています【図表7】。

第1次産業は、農業が250人と最も多く、漁業が111人、林業が21人です。平成26年における農作物の作付面積は約50万㎡ですが、米が約26万㎡で半分以上を占め、次いで大豆などの雑穀が10万㎡、馬鈴薯が4万㎡となっています。平成25年における全体の漁業生産高は1,421トンで、イカが637トン、紅ズワイガニが381トン、スケトウダラが110トンとなっています。

第2次産業は、建設業が436人と最も多く、次いで製造業が188人、鉱業が8人となっています。

第3次産業は、医療・福祉が585人、卸売・小売業が535人、公務が493人などとなっています。

観光客の入込数は、平成2年(1990)の80万人余りが最高でしたが、その後は少しずつ減少をして、平成28年(2016)は32万人余りとなっています【図表8】。



【図表8】江差町の観光客入込数推移

2-4 これまでの文化財調査

2-4-1 指定文化財

江差町内に所在する指定文化財は、平成28年12月現在において国指定2件、道指定11件、町指定34件です（【資料4】）。

国指定文化財は2件です。

●ヒノキアスナロ及びアオトドマツ自生地

文化財保護法の施行は昭和25年ですが、旧法によって大正11年に指定された「ヒノキアスナロ及びアオトドマツ自生地」が引き続き国指定天然記念物となっています。東北地方から北海道南部に自生している針葉樹のヒノキアスナロの北限と、サハリンから北海道に自生している針葉樹のアオトドマツの南限の混合林であることが特徴です。



ヒノキアスナロ及びアオトドマツ自生地

●旧中村家住宅

昭和46年には、「旧中村家住宅」が重要文化財に指定されました。建物は主屋・下ノ蔵・文庫倉・ハネダシの4棟からなり、主屋と貴重品を納める文庫倉は明治20年代、商品倉庫の下ノ蔵は江戸時代末の建築です（ハネダシは復元）。表通りに建つ主屋から海側に建つハネダシまでをトオリニワという1本の通路で結ぶ江差に特徴的な構造をしています。



旧中村家住宅

元々は近江商人の大橋宇兵衛が所有していましたが、大正4年（1915）に支配人をしていた近江出身の中村米吉が譲り受けました。昭和49年（1974）には建物が江差町に寄付されて一般公開が行われています。昭和55年（1980）から昭和57年（1982）にかけて保存修理工事が行われました。

道指定文化財は11件です。

有形文化財は3件指定されています。

●法華寺寛保津波の碑・正覚院寛保津波の碑

「法華寺寛保津波の碑」と「正覚院寛保津波の碑」は、共に平成4年（1992）に指定されました。

寛保元年（1741）に起きた渡島大島の噴火に伴う津波によって、渡島半島の西海岸に津波が押し寄せました。「福山秘府」によると、1,400名以上の溺死者がありました。「法華寺寛保津波の碑」と「正覚院寛保津波の碑」は、この津波で犠牲となった人々を弔うために建てられました。



法華寺寛保津波の碑



正覚院寛保津波の碑

●旧檜山爾志郡役所庁舎

「旧檜山爾志郡役所庁舎」は、平成4年（1992）に指定されました。

北海道では、明治12年（1879）に郡区町村編成法が施行されて郡が行政区域として扱われるようになり、江差には明治13年（1880）に檜山郡と爾志郡を管轄する郡役所が設けられました。

しかし旧来の建物を使用していたので手狭であり、明治20年（1887）に当時の北海道庁が新築の建物として建てたのが「旧檜山爾志郡役所庁舎」です。

木造寄棟屋根2階建ての主屋と平屋1階建ての付属屋が渡り廊下で繋がった構造

をしていて、バルーンフレーム工法や2階のバルコニーなど洋風建築として建てられています。しかし、屋根には能登瓦が葺かれ、土台には福井市で産出される笏谷石が用いられるなど、江戸時代から北前船の交易品として江差に運ばれて用いられてきた建築用材が使われていることが特徴です。

北海道では、明治30年（1897）に郡役所が廃止されて各地に支庁が置かれていましたが、この建物は檜山支庁庁舎として利用され、その後は檜山支庁の移転に伴って、昭和3年（1928）からは江差警察署庁舎、昭和46年（1971）からは江差町役場分庁舎などとして利用されてきました。

道有形文化財に指定後の平成8年（1996）から平成10年（1998）にかけて保存修理工事が行われ、その後に一般公開されています。



旧檜山爾志郡役所庁舎



江差姥神町横山家

有形民俗文化財は3件指定されています。

●江差姥神町横山家

「江差姥神町横山家」は、昭和38年（1963）に指定されました。

横山家は、天明6年（1786）に能登国（石川県）から移住した商家で、代々江差で商いを行なってきました。表通りに面した母屋から海側に向けて文庫倉・二番倉・三番倉・四番倉・ハネダシと5棟の蔵が建ち並んでいて、トオリニワと呼ばれる通路で行き来できるようになっています。

文化財の指定は建物だけではなく、横山家に伝わった生活用具等149点も一括して指定されています。

●江差姥神大神宮祭礼山車松寶丸及び附属品

「江差姥神大神宮祭礼山車松寶丸及び附属品」は、昭和38年（1963）に指定されました。

姥神大神宮渡御祭で神輿渡御に供奉する山車で、船体に記された墨書から弘化2年（1845）に建造されたことがわかります。交易船の姿をしていることが特徴で、船体は漆で塗られていて真鍮の金具が打ち付けられています。帆には三階松が描かれています。松寶丸という船名は、松前藩主が命名したと伝えられています。



江差姥神大神宮祭礼山車
松寶丸及び附属品

●江差姥神大神宮祭礼山車神功山人形及び附属品

「江差姥神大神宮祭礼山車神功山人形及び附属品」は、昭和38年（1963）に指定されました。

姥神大神宮渡御祭で神輿渡御に供奉する山車に載る人形の御首・胴体と衣装で、日本神話に登場する神功皇后を模しています。宝暦年間（1751～1764）に製作されたと伝えられています。合わせて、寒山拾得模様・張良黄石公出合模様・騏驎模様の3点の水引幕、日と月を縫い付けた旗、山車に乗る子供用の練子衣装も一括して指定されています。



江差姥神大神宮祭礼山車
神功山人形及び附属品

無形民俗文化財は5件指定されています。

●江差沖揚音頭

「江差沖揚音頭」は、昭和38年（1963）に指定されました。

江戸時代から明治時代にかけて江差で行われていたニシン漁の様子を民俗芸能としてまとめたものです。

漁場へ向かうために櫂を漕ぐ様、漁場に仕掛けていた網を起す様、起こした網にかかったニシンを大タモで汲む様、網に付いたニシンの鱗や数の子を棒で叩き落とす様、漁場から浜へ戻るために櫂を漕ぐ様が、歌とともに伝わっています。



江差沖揚音頭



五勝手鹿子舞

●五勝手鹿子舞

「五勝手鹿子舞」は、昭和38年（1963）に指定されました。

松前藩は、延宝6年（1678）にヒノキアスナロの伐採を管理するために檜山番所を江差に設けました。そのころから東北地方北部より多くの杣夫が江差に渡りヒノキアスナロの伐採に従事していましたが、彼らが東北地方で行なっていた民俗芸能を江差に持ち込んだものだと思います。

その構成は青鹿子・赤鹿子・黒鹿子・白鹿子という4頭のオス鹿子と1頭の雌鹿子からなる5頭の鹿子、笛・太鼓・茶釜・ササラの囃し手、唄を歌う親父と大傘持ちからなり、内容は雌鹿子を奪い合う青鹿子・赤鹿子・黒鹿子が白鹿子に諫められて仲直りをするというものです。

●江差追分

「江差追分」は、昭和52年（1977）に指定されました。

もともとは、信州（長野県）中山道追分宿の付近で歌われていた追分節が越後（新潟県）へ渡り、さらに日本海交易による交流によって江差へ渡って江差追分として伝わったものとされています。また一説には、寛政年間（1789～1801）に江差へ渡ってきた座頭の佐之市が謙良節を基にして江差追分を大成したとも伝わっています。

現在唄われている江差追分の代表的な歌詞は、「かもめの鳴く音に ふと目をさま

し あれが蝦夷地の 山かいな」ですが、7・7・7・5音で構成される歌詞はその他にも多数伝わっていて、歌い手の心情に合わせて唄われます。



江差追分



江差三下り

●江差三下り

「江差三下り」は、昭和57年（1982）に指定されました。

江差追分の基唄ともいわれる江差三下りは、江差が日本海交易で栄えていたころに楼閣などの座敷唄として歌われていたと伝えられています。

「江差港の 弁天様は わしがためには 守り神」という江差三下りの歌詞は、小諸馬子唄の「碓氷峠の 権現様は わしがためには 守り神」という歌詞と近似していて、その源流を推し量ることができます。

江戸時代後期の文政年間（1818～1830）には踊りも付けられていたといわれていますが、明治時代の初めに江差へ来演した東京春木座の中村梅玉丈によって、歌舞伎調の踊りに手直しされたといわれています。

●江差餅つき囃子

「江差餅つき囃子」は、昭和57年（1982）に指定されました。

盛んに行なわれた交易により、江差には多くの商家が建ち並んでいましたが、それら商家は、年末に数俵の餅を搗いたことが記録にも残されています。江差餅つき囃子は、その餅搗きの様を民俗芸能



江差餅つき囃子

の形で伝えています。

多くの搗き手が、三味線・笛・茶釜などの囃し手と歌い手に合わせて餅を搗きあげます。

北海道指定の無形民俗文化財は全部で7件ありますが、そのうちの5件が江差町内に所在しています。

町指定文化財は34件です。

有形文化財は17件、有形民俗文化財は7件、無形民俗文化財は6件、記念物はすべて史跡で4件です。

江差町では、「江差町文化財保護条例」（昭和39年施行）に基づいて文化財の指定を行ってきました。

文化財の指定は昭和46年度から始まりましたが、基本的に同類型の文化財をまとめて調査した後に、複数件の指定を行うという方針を採ってきました。昭和48年の第2次指定、昭和52年の第3次指定、昭和62年の第6次指定、平成3年の第7次指定、平成12年の第9次指定などで、その方向性が伺えます。

また、全体を概観すると、無形文化財の指定がないこと、記念物では国指定の天然記念物がありますが、道指定の記念物がなく、町指定の記念物は史跡だけであることなどがわかります（【資料5】）。

2-4-2 過去の調査研究

江差町ではこれまで、昭和52年（1977）から平成9年（1997）に亘って発行された『江差町史』（全11巻）や発掘調査報告書などの図書を刊行し、調査の成果を公表してきました。しかし、江差町の歴史文化についての調査は、町が行ってきたものだけではありません。大学や組織の研究者や民間の郷土史家などが、それぞれのテーマごとに研究成果を発表しています。

これまで、江差町の歴史文化を対象とした調査研究の成果についてまとめたものはありませんでしたが、今後の文化財の保存・活用において有効な資料となると考えられることから、その一覧を作成しました（【資料6】）。

調査研究の成果はこれからも増えていくので、江差町のホームページにリストを掲示しています。

2-5 構想策定における文化遺産調査

2-5-1 調査部員による調査

「江差町歴史文化基本構想」を策定するために設けた「江差町歴史文化基本構想策定委員会」内に、「江差町歴史文化基本構想調査部会」を置きました。

この調査部会は、主に町内の様々な分野で活動をされている方々に部員委嘱をして、各部員から任意に提出をしていただきました。

その結果、重複も含めて316件の文化遺産を把握しました。

2-5-2 町民アンケート

策定委員会や調査部会の議論のなかで、「江差町歴史文化基本構想」の策定を進めるには、町民の協力が必要であるとの共通認識が得られました。また、江差町教育委員会で把握している文化財だけでなく、幅広い未指定の文化遺産を収集するためには、町民からの情報提供が必要だとの意見をいただきました。

そこで、町民に対してアンケート方式で文化遺産の情報提供をしていただくこととしました。

ここでは、「文化財」という用語を用いるとこれまでの既成概念にとらわれてしまうおそれがあることから、あえて「文化財」という用語を用いずに「あなたのスキな江差はなんですか？」と題して、町民が身近にあって関心を寄せている文化遺産を収集することとしました。

アンケート回覧方法は、「広報えさし」へのチラシ折込による全戸配布や、調査部員による個別収集が主でしたが、「江差町文化祭」「江差町産業祭」「町内会連合会勉強会」など大勢の人が集う機会でもこの方法で文化遺産の収集を行ないました。

その結果、重複も含めて322件の文化遺産を把握しました。

2-5-3 「まちなか発見」活動

町民アンケートによる文化遺産収集とあわせて、町民とともに地域を歩きながら身近な文化遺産を見つけていく活動を行ないました。

その結果、重複も含めて56件の文化遺産を把握しました。

●「新地界限 まちなか発見」

平成27年11月8日（日）



●「水堀・越前・中網界限 まちなか発見」

平成28年4月24日（日）



2-5-4 シンポジウム

町民に対し、歴史文化基本構想の考え方や「江差町歴史文化基本構想」策定についての動きを啓発する活動をした際、講座の終了後に参加者を少人数にグループ分けし、各グループに策定委員や調査部員が入ってコーディネーターとなって文化遺産の収集を行ないました。

その結果、重複も含めて86件の文化遺産を把握しました。

●「歴史と文化から新たな町づくり みんなの力で日本遺産にチャレンジ！」

平成27年11月9日（月）



2-5-5 町担当者による調査

事務局である江差町教育委員会職員が、江差町内で文化遺産調査を行いました。

また、平成11年の町制施行100周年の際に募集した「100年先に残したい江差の100選」の応募内容も取り入れました。

さらに、埋蔵文化財包蔵地や、過去に江差町役場が行った樹木調査などの成果も取り入れました。

その結果、重複も含めて1,037件の文化遺産を把握しました。

●コウレン作り調査（江差町中網地区）

平成27年7月6日（月）～7日（火）



2-5-6 北海道大学観光学高等研究センターによる調査

江差町教育委員会では「江差町歴史文化基本構想」の策定にあたり、北海道大学観光学高等研究センターへ文化遺産調査の委託を行ないました。

●ストーリー志向型抽出法による文化遺産調査

調査日程

平成28年8月27日～30日

調査者

村上佳代（北海道大学観光学高等研究センター 特任助教）

簡士堯（北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 修士課程）

谷屋翔（北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 修士課程）

張可シン（北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 修士課程）

調査手法

地域の文化遺産を活用してまちづくりを行なっていくには、地域に眠っている文化遺産や様々なストーリーをいかに引き出して顕在化することができるかが鍵となります。

その際には、「エリア悉皆型抽出法」と「ストーリー志向型抽出法」の2つの手法が考えられます。

今回の調査は「ストーリー志向型抽出法」で行ないました。

「ストーリー志向型抽出法」は、地域の歴史文化を物語るストーリーを決定して、できる限りの地域資源の把握をしながら、地域住民へのヒアリングなどを行なって、ストーリーとそれを証拠付ける文化遺産を特定するものです。

「ストーリー志向型抽出法」は、決定したストーリーから文化遺産を決定するので、抽出される文化遺産は不動産・動産など多岐に亘ります。地域住民が考えている情報をヒアリングすることから、意外な情報を得ることができる場



ヒアリング調査の様子

合があります。

しかし、調査者が文化遺産についてある程度の知識を持っていない場合に、ストーリーを証拠付ける文化遺産の抽出に取り掛かることができないことや、文化遺産を抽出した後にストーリーとの関連性の真偽を確かめる必要があるなどの点も考慮しなければなりません。

調査結果

事前のワークショップなどから、以下のストーリーを決定しました。

【北の町衆文化】

「江差の五月は江戸にもない」と言われるように、北前船による交易など、文化交流が盛んであった江差のまちには、その当時を思い出させるさまざまな文化が現存する。このトレイルのスポットを順番に巡ると、いろいろな視点からの「北の町衆文化」に出逢える。

「北の町衆文化」というストーリーに基づいて、いにしえ街道沿いの江差町民16名にヒアリング調査を実施し、80件の地域資源が顕在化しました。

●建物悉皆調査

調査日程

平成28年8月27日～10月29日

指導者

角幸博（北海道大学名誉教授）

調査者

西山徳明（北海道大学観光学高等研究センター長／教授）

八百板季穂（北海道大学観光学高等研究センター 特任准教授）

伊東美菜子（北海道大学観光学高等研究センター 学術研究員）

山崎弘（北海道大学国際広報メディア・観光学院観光創造専攻 修士2年）

渡邊萌木（北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース 4年）

調査手法

江差町における歴史的建築物の本来用途に基づく類型とおおよその特性を明ら

かにするため、また、歴史的建築物の残存状況を定量的に把握するために調査を行いました。

初めに、江差町内ですでに文化財指定を受けて保護されている建築物と工作物について把握を行ないました。

次に、町名、所有者・居住者、現在の建物の用途、本来の建物の用途、建築主、建築年代（調査時の判断・西暦・根拠）、屋根形式（棟向・屋根型・棟型・屋根材・下屋）、二階外観意匠（軒裏・外壁・窓）、規模（階数・間口・梁間）、平面形式（通土間・吹抜・主座敷）などを内容とする調査票を作成し、江差町の建築に関する有識者とともに外観調査を行ないました。

さらに、指導者の助言を得ながら、典型と思われる市街地（津花町）、漁村部（伏木戸町）、農村部（水堀町・鹹川町・小黒部町）で外観調査を行なって、建築の特徴を把握しました。

その後、江差町全域にわたって、外観からの建築類型や残存状況と保全の状態を把握しました。

調査の対象は、江差の伝統建築の様式を有していて、築50年以上と見込まれる建築物としました。

調査結果

調査を行なった結果、江差町内で210棟の建築物と15件の工作物を拾い上げることができました。

分布においても、津花町・姥神町・中歌町などの市街地に歴史的建築物が集中しているものの、江差町北部の農村部にも歴史的建築物が存在していることが明らかになりました。



建物悉皆調査の様子

2-5-7 文化遺産調査の現状と課題

このように、「江差町歴史文化基本構想」策定以前の文化財調査をまとめ、策定において文化遺産調査を行いました。

構想策定における調査では1,817件の文化遺産を把握しました。この中には

多数の重複が見られたので精査し、724件の文化遺産をリスト化しました（【資料7】）。これら文化遺産の情報や位置は、インターネットで公開をしています。江差町のホームページからご覧いただけます。

文化遺産の捉え方は、見方や時間の経過によって変わります。また、開発に伴う新たな遺跡の確認や新たに確認される資料の出現などによってその数は変化をします。

文化財保護法などによって指定すべき文化財は、新たに指定をしていくことが求められます。しかし、指定されない文化遺産も多数存在することも事実です。

また、今回の調査において、文化遺産を保存・活用する担い手が不明確なものも確認することができました。

指定されていない文化遺産や担い手の不明確な文化遺産は、時間の経過や社会情勢の変化で姿を変え、または無くなってしまう可能性もあります。

そのようなことをなるべく最小限にするため、文化遺産の把握をさらに進め、その文化遺産の担い手を確認・創出し、地域全体で文化遺産の保護・活用を進めていくことが求められます。

また、数多くの文化遺産が町内にあるということを、広く周知することも必要です。

2-6 江差町の歴史文化の特徴

2-6-1 歴史文化の特徴

これまで行ってきた文化遺産調査の結果、江差町の歴史文化の特徴として、4点を【図表9】に挙げます。

1	鷗島を中心とした江差の地形から生まれた歴史文化
2	本州からわたってきた文化が江差の風土に合うように形を変えた歴史文化
3	有形と無形が響き合う歴史文化
4	日々の生活リズムに根ざして人々が今も楽しんでいる歴史文化

【図表9】江差町の歴史文化の特徴

1 鷗島を中心とした江差の地形から生まれた歴史文化

江差町の西側は日本海に面していますが、鷗島は江差の市街地を包み込むように南北に細長く位置しています。

江戸時代中期、江差沖でニシン漁が行なわれるようになると、松前藩が鷗島の周辺を藩指定の交易港としたこともあり、本州との交易が盛んになっていきました。これは、鷗島が西側からの強い波濤を防ぐ天然の防波堤として機能していたからです。



市街地の沖に浮かぶ鷗島

江差の町なみは、海岸段丘の下側に伸びているわずかな平坦地に広がっていましたが、暮らすのに不自由な場所に家並みが展開していったのも、鷗島が交易港として有効であったからです。

鷗島には、航海安全を願う弁財天社が設けられ、本州からやってきた北前船の乗組員たちの尊崇も受け、石鳥居や手水石などの寄進物も遺されています。

また、江差でニシンが獲れるようになった伝説にまつわる瓶子岩は、現在でも江差町のシンボルとして受け止められています。

2 本州からわたってきた文化が江差の風土に合うように形をかえた歴史文化

鷗島に設けられた港には、本州から多数の交易船が来航して盛んな交易を行ないました。それとともに、人々の移動や文化の交流も活発に展開していきました。

江戸時代中期に、江差町の東側に広がるヒノキアスナロ材の伐り出しが行なわれるようになると、東北地方の杣夫が江差に移住して作業を行ないました。

その杣夫たちは、自分たちが東北地方で行なっていた獅子踊を江差に伝えましたが、獅子の姿は江差の山中で見られるシカに変わり、現在では鹿子舞として伝承されています。



町内3ヶ所で伝承されている鹿子舞

また、その他にも、中山道追分宿付近で誕生したといわれる追分節が各地に伝播していく中で、北前船の交易によって江差にも伝わり、曲調を日本海の波のように変えながら現在まで伝承されている江差追分や、13台の山車が繰り出される姥神大神宮渡御祭において、祭囃子だけでなくニシン漁の作業唄であった切り声が唄われるなどの例があります。

3 有形と無形が響き合う歴史文化

江差町で最高峰の笹山山頂には、江戸時代には松前藩主の代参も行なわれていた笹山稲荷神社が鎮座しています。

この笹山稲荷神社への登拝行事は、現在でも春季と秋季の2回行なわれていて、多くの町民が参拝をしています。

参拝する登山道の途中には湧水地があり、その近くには名前も付けられていない岩があります。その岩には注連縄が掛けられ、笹山稲荷神社への参拝者もお参りをしますが、行きに供物や湧水地で汲んだ水をこの岩に捧げ、帰りに供物や水を持ち帰るといふ風習が現在も行なわれ



岩に捧げられた供物や水

ています。

その他にも、各家の家印の焼印が押された古い道具が伝わっていますが、現在でもその家印でお互いを呼び合う風習や、太鼓、ササラ、衣装など民俗芸能の道具を現在でも手作りしている団体などの例があります。

4 日々の生活リズムに根ざして人々が今も楽しんでいる歴史文化

毎年8月9日から11日に行なわれる姥神大神宮渡御祭は、江差市街地の各町から13台の山車が出て、神輿渡御に続いて町中を巡行する祭礼です。

姥神大神宮渡御祭に参加をする人々は祭礼に合わせて自分たちの行事を組み立てていきます。

お囃子を担当する子どもたちは、1学期が終わって夏休みが始まると、町ごとに伝承されている祭囃子の練習を始めます。この祭囃子を練習する音が町中に聞こえてくると、大人たちも本格的に祭礼の準備を始めます。



祭囃子を練習する様子

その他にも、祭礼用に作る料理の山菜を春早い山中に採りに行って保存加工をしたり、農作業が一段楽する初夏に伝統的な郷土菓子を地域の人たちが集まって作る作業なども行なわれています。

2-6-2 文化遺産把握の方針

「江差町歴史文化基本構想」の策定において、指定・未指定にかかわらず町内の文化遺産を幅広く収集した結果、1,800件以上の文化遺産を収集し、重複分を整理して700件以上のデータベース化を行ないました。

そして、第3章でも詳述をしますが、この文化遺産のデータベースは、今後も「江差町歴史文化基本構想」の根幹作業として継続をしていきます。

文化遺産のデータベース化に当たって、どのような文化遺産を対象とするのか、どのような基準なのか、誰が管理をするのかなどの議論を行なった結果、【図表10】のような方針で実施していくこととしました。

1	「50年以上経過」など、文化遺産の経年についての基準は設定しない。
2	文化遺産とその文化遺産を担う人をセットにして登録する。
3	データベース化するにあたって、従来の文化財類型を踏襲するのではなく、あらたな分類を設ける。
4	登録したデータベースは、江差町教育委員会で管理する。

【図表 10】文化遺産把握の方針

しかし、当然のことながら、重要な文化遺産については文化財保護法などによる文化財指定行為も行なっていかなければなりません。

江差町教育委員会としては、「江差町歴史文化基本構想」の考え方に沿った文化遺産のデータベース化を進めるとともに、これからの文化財指定を踏まえた文化遺産の把握を進めていきます。

第3章 文化遺産保存・活用の基本方針

3-1 基本理念

江差町には、先人から受け継いだ海や山などの豊かな自然と、それらによってもたらされてきた地域の繁栄の歴史と人々の交流を通じて育まれてきた数多くの文化遺産があります。それらは地域共有の財産であり、江差町民の誇りでもあります。

前章で述べたように、江差町の歴史文化の特徴として4点を【図表11】に再度挙げます。

1	鷗島を中心とした江差の地形から生まれた歴史文化
2	本州からわたってきた文化が江差の風土に適うように形を変えた歴史文化
3	有形と無形が連動した歴史文化
4	日々の生活リズムに根ざして人々が今も楽しんでいる歴史文化

【図表 11】文化遺産把握の方針

これらの特徴によって、江差町民の熱い郷土愛が生まれ、訪れる人々を惹きつける魅力が形づくられています。

このような特徴を江差の強みとして活かすことによって、新たなまちづくりの方向性が見えてきます。

そこでは、コミュニティの力を活かして町民の暮らしを支える様々な施策とともに、観光やものづくりなどの産業振興に関連した「地域ブランディング」とも連動する新たな価値を見出す取組みが必要とされます。

文化遺産の総合的な保存・活用を推進するためには、文化財保護法や道・町の条例による文化財保護の施策と、それ以外の制度による文化遺産の保存・活用に関する施策や、周辺環境の保護と整備に関する施策、さらには文化遺産の適切な活用による地域振興に関する施策とが体系的に位置づけられ、一貫性を持って実施されることが重要です。

文化遺産の保存とは、現状を変えることなく維持することと捉えられることが多いのですが、使い続けることにより文化遺産の価値の維持や継承につながる場合もあり、こうした取組みも文化遺産の保存ともいえるでしょう。また、公開すること

によって文化遺産を身近に感じてもらうことも有効な活用と言えます。新たな機能を持たせて使い続けながら、その文化遺産の価値や魅力を多くの人々に伝え、広く社会に理解してもらうことは、活用だけでなく保存していることにもなります。

このように文化遺産の保存と活用は明確に分かちがたいもので、どちらか一方にかたよった取組みとならないように、保存と活用を一体的に捉えた方針作りが重要です。したがって、活用を考えることに重点が置かれ、文化遺産の本来の価値を損なうようなことは避けなければなりません。

江差町における文化遺産の活用としては、地域に暮らす住民向けと、観光などで江差を訪れる来訪者向けの両面が考えられます。

地域に暮らす住民向けには、江差で働いて楽しみながら暮らすための文化遺産活用が考えられ、訪問者向けには、江差を訪れた時に江差らしい体験を楽しみたいという要望に応える文化遺産活用が考えられます。

しかし、基本的な方針については共通であるべきです。

来訪者に対する江差の文化遺産についての伝え方や楽しみ方について、江差を詳しく知らない人向けに配慮されることは必要ですが、地元の暮らしぶりとは無関係の観光客向けの商売としてのもてなし方は、避けることとしたいと思います。

しっかりと訓練されたプロが担当するテーマパーク的な楽しさ一杯のもてなし方や洗練された案内の仕方も魅力的ですが、江差では普通に暮らしている地元の人々との素朴で温かいふれあいや交流を通じたおもてなしを大事にして行きたいと思えます。

先人から引き継がれてきた文化遺産が現在の暮らしの中に生きている江差では、交流・体験型の観光の面で、普通の町民が様々な役割を担える可能性があります。

例えば、祭囃子の奏者、伝承神楽の演者、町民によるガイド、江差追分などの民俗芸能の伝承者たちが発揮する多芸多才なおもてなし、イベントや宿泊時に味わうことができる地域に伝わる季節ごとの料理のおもてなし、そのようなことを地元で暮らしている人々が普通に行なうことができるのが江差なのです。



町民によるガイドの様子

町民1人1人が、普段の暮らしの中で江差らしいおもてなしの文化を担っていく意識を高め、その意識が文化遺産の保存・活用と関連した「ものづくり」に活かされて新しい仕事がつくり出され、地元で働きながら暮らすことができる。そのような活用を目指していきます。

このように江差町では、従来から取り組んできた文化財保護法の文化財6類型に基づいた文化財の保存を継続していきながらも、新たに「江差町歴史文化基本構想」を策定して、文化財6類型に当てはめることが難しい文化遺産も拾い上げ、より幅広い視点で文化遺産の保存・活用を進めていくこととします。

江差町における文化遺産保存・活用の基本理念を【図表12】に掲げます。

文化遺産保存活用の基本理念	■文化遺産の保存・活用の方向性
	文化遺産の適切な継承とまちづくりへの活用
	■めざす姿
	歴史が暮らしにとけこみ「生活のリズム」を刻むまち
	■取り組む姿勢
	①多くの町民が自分のできる範囲での役割を担いながら参加して取り組む
	②暮らしに身近なことから段階的に取り組む
	③町民と行政が連携しながら継続的に取り組む

【図表12】文化遺産保存活用の基本理念

江差町では、町民と行政がこの基本理念を共有しながら役割分担し、相互連携による継続的な文化遺産の保存・活用を推進します。

3-2 基本理念を実現するための方策

今後は、「江差町歴史文化基本構想」で掲げた歴史文化の特徴を活かしながら、文化遺産保存活用のための基本理念に基づいて、文化遺産の保存・活用を図っていきます。

しかし、地域や社会の情勢の変化によって生活スタイルが変わったり、文化遺産を支える技術の担い手がなくなったりすることも想像され、長年にわたって継承されてきた地域の文化遺産が失われていくことも考えられます。

そこで、文化遺産保存活用の基本理念を実現していくための方策を掲げます。

江差町にある文化遺産は、すでに文化財保護法などによる指定を受けて保護されている文化財があります。また、文化財保護法などによる指定を受けていない文化遺産や、文化財保護法に基づく文化財6類型（【図表1-3】）に当てはめることが難しい文化遺産があります。

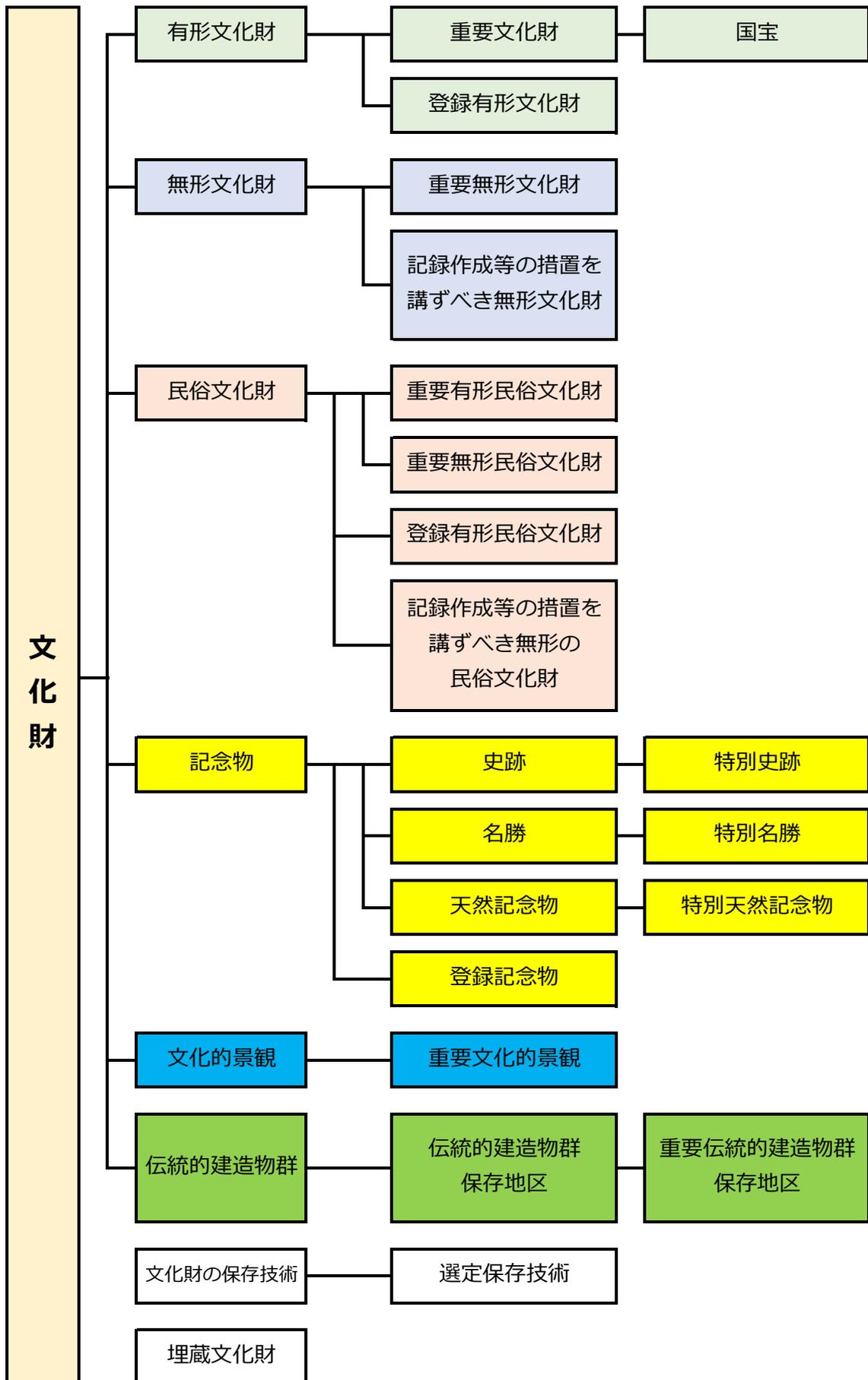
このように様々な文化遺産を保存・活用していくためには、これまでの文化財行政にみられた保護中心の手法だけではなく、活用のありかたを明確に意識した取り組みが必要です。

言い方を変えれば、文化遺産は活用の視点から取り組むことによってさらに価値が高まって保存が進んでいくのだ、という考え方も持ちながら活動を行なっていきます。

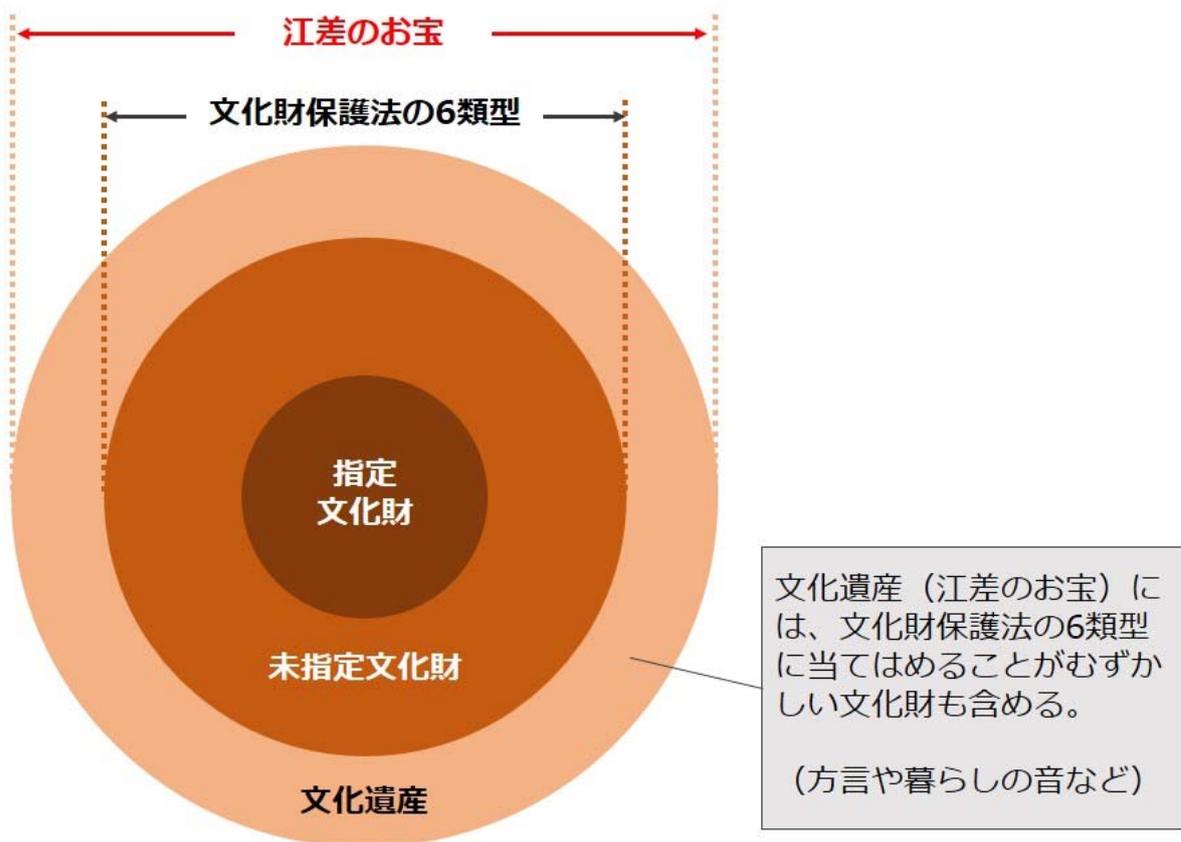
その考え方の根底には、「価値があるから残す」というだけではなく、「江差らしい暮らしに不可欠なので、みんなで大事にしていく」という捉え方が重要で、文化遺産の本質的な価値をしっかりと示すことが不可欠となります。

これまであまり意識されてきませんでした。が、「江差追分」「姥神大神宮渡御祭」「いにしえ街道」などの文化遺産は、多くの町民がその存在を自分たちの暮らしの中で存分に楽しみながら、それら文化遺産がない江差は考えられないとの強い思いで支えられて来たものです。

したがって、江差町における文化遺産の保存・活用については、学術的な視点を持ちつつも、人々の生活のリズムとの関係からの視点を加えて行なっていきます。



【図表 13】文化財保護法における文化財の体系図



【図表 14】「江差町歴史文化基本構想」で扱う文化遺産の定義

このような考え方に基づいて、文化遺産保存・活用の理念を実現するための方策の第1段階として、文化遺産をデータベース化していく作業を行ない、データベースに登録した文化遺産を「**江差のお宝**」と称することにします【図表 1 4】。

データベース化は、まず1件の「**江差のお宝**」ごとに「「江差のお宝」カード」を作成【図表 1 5】し、その後にデータベース化をします。基本は対外的に公開をしますが、防犯や個人情報保護などの観点から非公開となる情報もあるでしょう。

「**江差のお宝**」をデータベース化していくに当たっては、行政や専門家と連携をしながら、町民が主体的に参加をしていくことが重要です。データベースの管理は江差町教育委員会が行ないます。

また、それぞれの「**江差のお宝**」と、それぞれの「**江差のお宝**」の継承・活用の担い手となる人や組織をセットでデータベースに登録していくことを基本とします。

「**江差のお宝**」と継承・活用の担い手をセットでデータベース化することによって、遺されてきた「**江差のお宝**」の保存、失われた「**江差のお宝**」の記録、「**江差のお宝**」の育成を総体的に行なうことが目的です（【図表 1 6】）。

「江差のお宝」カード

ヨミ	キュウナカムラケジュウタク				
名称	旧中村家住宅				
No.	00001	大分類	不動産	小分類	実物
所在地	江差町字中歌町22				
担い手	氏名 名称	江差町教育委員会			
	連絡先	江差町字中歌町193-1	TEL	0139-52-1047	
「宝箱」					

写真



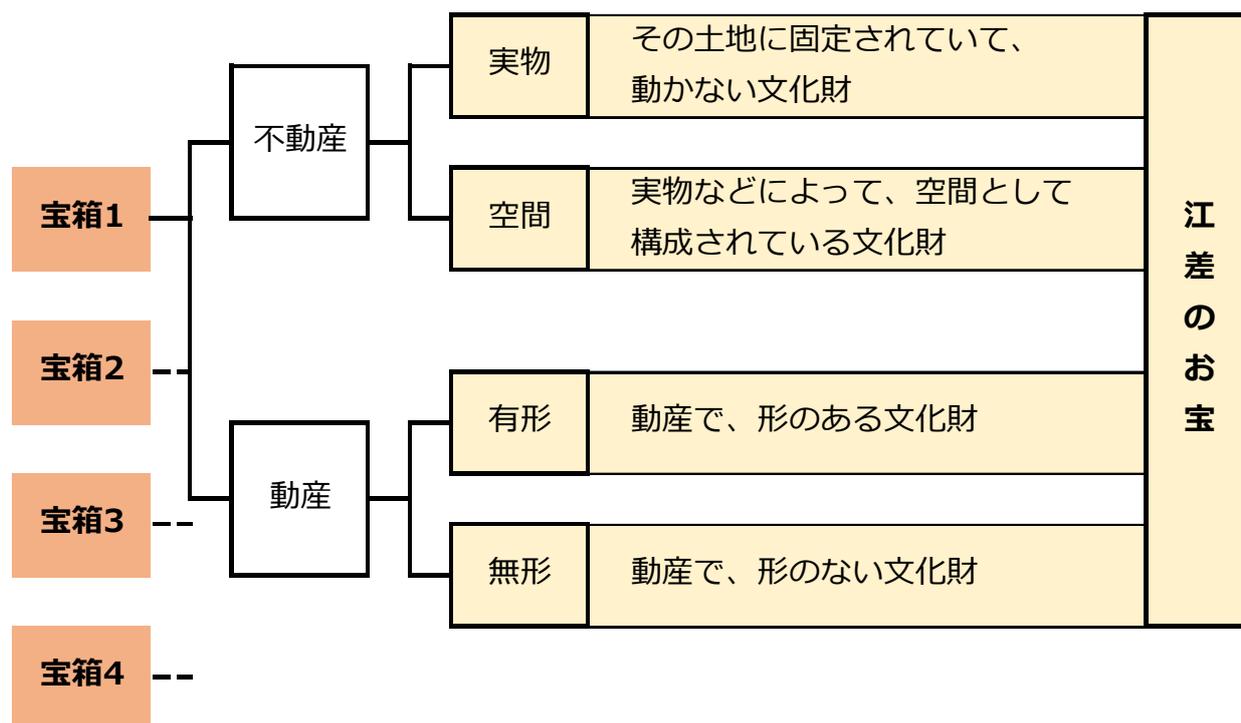
文化財名称	旧中村家住宅	
文化財分類	国指定重要文化財	S46.12.28

【図表 15】「江差のお宝」カード」の内容



【図表 16】「江差のお宝」データベース化の概要とその目的

「江差のお宝」は、文化財保護法に基づく文化財 6 類型に当てはめることが難しい文化遺産も含まれるので、新たな文化遺産の分類項目を設けました（【図表 1 7】）。



【図表 17】「江差のお宝」の分類項目

これらのデータベース化を行なうことによって、文化遺産の保存とともに、その周辺環境の整備、ものづくりや体験型観光などにおける新たな仕事づくり、新たな仕事作りによる地域活性化など、まちづくりへの活用を図る可能性が考えられます。

次に、データベース化したいくつもの「江差のお宝」について、それぞれの魅力

を高めるとともに、わかりやすい形で価値を伝えていくための方法として、関連文化財群の認定を行ないます。

関連文化財群とは、様々な文化遺産を、その地域の歴史的、地域的関連性（ストーリー）に基づいて一定のまとまりとして捉えたものです。

「江差町歴史文化基本構想」では、その関連文化財群を「**宝箱**」と称することになります。

【図表16】で表したように、「**宝箱**」に詰め込まれる「**江差のお宝**」は、大きく「不動産」と「動産」に分けられます。さらに「不動産」は「実物」と「空間」に、「動産」は「有形」と「無形」に分けることができます。

「**宝箱**」は、これらが渾然一体となってひとつのストーリーを織り成しているものです。

「実物」とは、古木・島・岩などの自然物や建物・塀・石碑など実際に目にすることや手に触れることができる工作物で、土地に定着していて所在を変更することが難しい文化遺産を指します。

「空間」とは、「実物」がその場所にある根拠となっている地割・地形・道筋・川の経路など、直接見たり手に触れて実感したりすることは難しいけれども地図上に記すことができる文化遺産です。この「空間」は、まちの形や景観のおおもとを支えている大切な要素ですので、意識して継承していかなければなりません。

「有形」とは、暮らしの中で昔から用いてきた道具、古い記録、大切に受け継いできた美術品など、不動産以外の形ある文化遺産を指します。

「無形」とは、個人に宿っている技術、集団で継承されてきた芸能や作法、地域で語られている言葉、また地域の一定の集団で継承されてきた風習、行事、料理の調理法などを指します。

さらに、「**江差のお宝**」の収集・データベース化や、「**宝箱**」の認定を行なうために、町民・専門家・行政などが参加をする「**工工町、江差 宝箱会議**」を立ち上げます。

また、データベース化で把握した「**江差のお宝**」や、地域のストーリーに基づいた一定のまとまりである「**宝箱**」は、学校教育の場でも活用していきます。

学校での授業内容は文部科学省が定めた「学習指導要領」で定められていて、各学校では「学習指導要領」の内容に沿って、各学年の指導計画を作成しています。

これまでも、江差町内の町立小中学校では「学習指導要領」に沿った地域学習に取り組んできました。

例えば、小学校3年生・4年生社会科で行なう地域の昔の生活と文化財や年中行事の学習、小学校6年生理科で行なう土地のつくりと変化の学習、総合的な学習の時間で行なう地域の民俗芸能の伝承などで、地域の人たちや教育委員会と連携して文化遺産を学校教育の場で活用しています。



民俗芸能伝承の授業

「**江差のお宝**」のデータベース化を進めて学校教員と情報の共有を図り、さらに「**宝箱**」のストーリーと関連する他の「**江差のお宝**」と関係付けながら活用することによって、基本理念の実現を進めていきます。

防災・防犯については、消防や警察との連携、設備の設置と点検、訓練の実施、管理体制の強化など、データベース化に当たって「**江差のお宝**」とセットで登録する担い手の人や組織と連携しながら、これまでに出されている文化庁通知の実践を進めていきます。

第4章 関連文化財群

4-1 関連文化財群の考え方

『「歴史文化基本構想」策定ハンドブック』では、有形・無形、指定・未指定にかかわらず、様々な文化財を歴史的・地域的関連性（ストーリー）に基づき一定のまとまりとして捉えたものを「関連文化財群」と呼んでいます。

「江差町歴史文化基本構想」においても、この考え方を取り入れて関連文化財群を認定していきますが、先述したように、関連文化財群のことを「**宝箱**」と称することとします。

これは、第3章で述べた地域の文化遺産を「**江差のお宝**」と称してデータベース化することと関連させると、一定のストーリーに基づいて抽出した「**江差のお宝**」のまとまりであることから、「**宝箱**」という名称がふさわしいと考えたからです。

「**宝箱**」を見出していく際には、一定のストーリーに関連する「**江差のお宝**」を過不足なく拾い上げることが重要です。別な見方をすれば、見出したストーリーについて新たに拾い上げた「**江差のお宝**」を、改めてデータベースに登録していく作業も求められるでしょう。

また、いくつもある「**江差のお宝**」の中には、複数の「**宝箱**」に属するものもありますし、どの「**宝箱**」にも属さないものもあるかもしれません。

このような考え方は、ややもすると地域からも忘れ去られて失われそうになる単体の「**江差のお宝**」を、他の「**江差のお宝**」とともに一定のストーリーに基づいてまとまりとして捉えることによりその評価を見直し、地域の人々と今の暮らしとの間にもう一度関係性を作り直すことができるようにすることが目的です。

「**宝箱**」の見出し方は、ストーリーの考え方によって様々な捉え方がありしますので、今後の充実を図るために、考え方や対象となる「**江差のお宝**」の基準などに関する考え方を示します【図表18】。

「**宝箱**」は、町民とともに江差の歴史文化の特徴や魅力を的確に表すストーリーを見出して、そのストーリーを構成する「**江差のお宝**」を過不足なく抽出して、まとまりとして捉えたものです。

「宝箱」の考え方	
1	江差の歴史文化の特徴や魅力を的確に表すストーリーを見出し、そのストーリーを構成する「江差のお宝」を抽出して、まとめりとして捉える。
2	ストーリーとそのストーリーを構成する「江差のお宝」を、総体として保存・活用する。
3	「宝箱」の保存・活用は、ストーリーを構成する「江差のお宝」の担い手が行なっていくこととする。
4	「宝箱」を見出して認定していく作業は、継続して行なっていく。
ストーリーを見出す基準	
1	江差を想起することができ、現在の暮らしと結びつく内容。
2	多くの町民がその特徴や魅力を共有することができる内容。
抽出する「江差のお宝」の基準	
1	実在（活動）しているもの。
2	実在（活動）していなくても、記録があり、今後復活が見込まれるもの。

【図表 18】「宝箱」を見出す考え方

そのストーリーを見出す基準は、ストーリーの内容が江差を想起することができ、現在の暮らしと結びつく内容であること、また、多くの江差町民が特徴や魅力を共有することができるストーリー内容であることとします。

「宝箱」を構成する「江差のお宝」の基準は、その「江差のお宝」が実在・活動しているものを前提としますが、実在・活動していなくても、その「江差のお宝」に関する歴史的記録が残されていて、今後その歴史的記録に基づいて復活が見込めるものとします。

「宝箱」を見出すことによって、「宝箱」のストーリーとそのストーリーを構成する「江差のお宝」を総体として保存・活用していきます。

また、「宝箱」の保存・活用は、「宝箱」のストーリーを構成する「江差のお宝」の担い手が行なうこととします。

「宝箱」を見出し認定していく作業は、期限を定めず、上限も設けずに、これから継続して取り組んでいきます。

4-2 見出した「宝箱」、江差追分

前記のような考え方に基づいて、主に町民で構成されている「江差町歴史文化基本構想策定委員会調査部会」において、第1号の「**宝箱**」を見出す作業を行ないました。

その作業の中では、「江差追分」「ニシン」「北前船」「祭礼」のテーマが挙げられ、それぞれのテーマに関連する「**江差のお宝**」の抽出がされました。

この4テーマは、それぞれに関係性があり、どれも江差を想起することができますが、全国的知名度、町民の誇りと愛着、日々の暮らしの中での関わり、関連する行事や活動の多様さ、他地域の愛好家や観光客・来訪者にとっての関心度合いなどの面から、江差として最初に認定していく「**宝箱**」としては「江差追分」が相応しいとの意見が大勢を占めましたので、「江差町歴史文化基本構想」の考え方を基に見出す「**宝箱**」の認定第1号は、「江差追分」に関連したストーリーとすることとしました。

そのストーリー内容や「**江差のお宝**」については、今後町民などと協議をしながら組み立てていきますが、その際の参考となるように、「江差追分」に関連する具体的な「**江差のお宝**」の候補を【図表19】に挙げておきます。

大分類	小分類	名称	大分類	小分類	名称
不動産	実物	江差追分会館	不動産	実物	江差追分歌詞の碑
不動産	実物	江差追分の道場	不動産	実物	佐之市の碑
不動産	実物	江差追分節記念碑	不動産	実物	小路豊太郎の碑
不動産	実物	浜田喜一の像			
不動産	空間	江差追分が流れる町なみ	不動産	空間	ゴミ収集車の江差追分
不動産	空間	対鷗館の三味線の音	不動産	空間	江差追分を唄う光景
不動産	空間	明治42年師匠会議の場			
動産	有形	カモメ	動産	有形	江差追分人形
動産	有形	正調江差追分節基本譜	動産	有形	近江タキ氏愛用三味線
動産	有形	小路豊太郎愛用尺八	動産	有形	江差追分文庫
動産	有形	飯島コレクションレコード	動産	有形	浜田松鶴の江差追分譜
動産	無形	江差追分	動産	無形	江差三下り
動産	無形	江差追分踊り	動産	無形	江差追分会館での実演
動産	無形	江差追分の唄心	動産	無形	江差追分 詰木石節
動産	無形	江差追分 新地節	動産	無形	江差追分 浜小屋節
動産	無形	三味線の技術継承	動産	無形	尺八の技術継承
動産	無形	江差追分全国大会	動産	無形	全国大会の優勝者
動産	無形	江差追分会	動産	無形	佐之市の法要
動産	無形	郷土芸能伝承まつり			

【図表 19】「江差追分」を「宝箱」のテーマとした時の「江差のお宝」候補



■ 江差追分会館
江差追分を後世にまで伝承していくことを目的に建設された。



■ 佐之市の碑
江戸時代後期に江差追分を大成したと伝わる佐之市を顕彰する石碑。



■ 江差追分が流れる町なみ
町なみを歩くと、建物やゴミ収集車から江差追分が聞こえてくる。



■ 江差追分全国大会
昭和38年に始まった大会で半世紀以上続いている。



■ 正調江差追分節基本譜
いくつか流派があったが、師匠たちが話し合い正調の譜面が作られた。



■ 佐之市の法要
江差追分全国大会が行なわれる前日に、佐之市の碑前で行なわれる法要。

第5章 歴史文化保存活用区域

5-1 歴史文化保存活用区域の考え方

歴史文化保存活用区域とは、『「歴史文化基本構想」策定ハンドブック』においては、様々な文化財が特定地域に集中している場合に、文化財と一体となって価値を形成する周辺環境も含めて、その地域にある様々な文化財を核として文化的な空間を創り出すための計画区域として定めることが望ましい区域としています。

この中では、文化的な空間を創出している、または創出するための区域として捉えることが重要で、何のために歴史文化保存活用区域を定めるのかを明確にしておくことが求められます。

また、歴史文化保存活用区域は、必ずしも1つの関連文化財群（**「宝箱」**）に対応しなければならないということではないと考えられることから、多様な文化遺産が遺されている江差町では、区域の考え方が単純にはならないのではないかと想定されます。

さらに、歴史文化保存活用区域における住民主体の取り組みを意識していくと、本州からの移住によって形成された集落の出自や、旧村合併の影響による住民意識の差異の存在などの条件も加味して考えていく必要があります。

このようなことを考慮して、「江差町歴史文化基本構想」における歴史文化保存活用区域は、見出した**「宝箱」**のストーリーへの理解を深めるために、**「宝箱」**を構成している**「江差のお宝」**を核として、文化的な空間を創り出すための計画区域と考えます。

この考え方に基づいた歴史文化保存活用区域の設定と取り組みについては、設定した区域の保存・活用の方針や体制整備の検討が必要です。

5-2 歴史文化保存活用区域の設定

江差町の人々は、地域の歴史文化を暮らしの中に自然に織り込み、生活のリズムとして楽しむことができました。

歴史文化保存活用区域を設定する場合には、さらに幅広く捉えて、設定区域内のコミュニティ再生と活性化にもつなげていきたいと考えます。

そのため、設定した歴史文化保存活用区域での活動に関わる多くの町民が、目標や価値観を共有しながら活動しやすいように考えていくことが求められます。

「江差町歴史文化基本構想」の当初策定段階においては、歴史文化保存活用区域の設定までは行なわないこととし、今後取り組んでいく「**江差のお宝**」のさらなるデータベース化、そこから見出していく「**宝箱**」、そして「**エエ町、江差 宝箱会議**」の議論において検討を行なうこととします。

第6章 保存活用計画

6-1 保存活用計画の考え方

保存活用計画とは、文化遺産やその周辺環境までを含めて、総合的に保存・活用していくための詳細な計画です。

江差町の歴史文化の特徴は、有形と無形が連動し、日々の生活リズムに根ざして人々が今も楽しんでいることが特徴です。その特徴を活かしていく保存活用計画を作成することが求められます。

また、文化遺産の現状保存を前提としての活用という考え方だけでなく、文化遺産を上手に活用しながら遺していくという考え方も取り入れて保存活用計画を作成していきます。

保存活用計画では、対象となる文化遺産や、保存活用計画の作成者、文化遺産の保存活用方針などを定めていきますが、「江差町歴史文化基本構想」では、見出した**「宝箱」**ごとに保存活用計画を策定することとし、その考え方を【図表20】に掲げます。

今後は「江差町歴史文化基本構想」の考え方に基づいて、平成29年度以降に「江差追分」をテーマとした**「宝箱」**を形作りながら、担い手が主体となって保存活用計画を作成していきます。



右奥にある江戸時代の蔵は、町民たちが自ら活用をするためにリノベーションしてカフェとして再生され、様々なイベントも行なわれている。

保存活用計画の対象	
1	見出した各「宝箱」ごと。
保存活用計画の作成者	
1	「宝箱」の保存活用を行なう担い手。
2	「「エエ町、江差」宝箱会議」も、「宝箱」の担い手と協議を行なう。
保存活用計画の内容	
1	現在の暮らしと結びついた保存活用計画。
2	多くの町民が共感をもって参加できる保存活用計画。
保存活用計画の見直し	
1	保存活用計画の取り組み状況の検証を行い、見直しをしていく。

【図表 20】保存活用計画の考え方

第7章 文化遺産保存・活用のための体制の整備

7-1 保存・活用のための体制の考え方

江差町における文化遺産の保存・活用は、江差町の歴史文化の特徴にもあるように、文化遺産が遺されているだけではなく、人々の生活リズムに根ざし、多くの町民がそれらを楽しみながら担って引き継いでいくものでなくてはなりません。

江差町内には、例えば、北限のヒノキアスナロの再生と活用を目指して活動をしている団体、江差追分を習って唄い後進に引き継いでいる団体、毎年8月に行なわれる姥神大神宮渡御祭に向けて指折り数えながら活動を行なっている団体、江戸時代から伝承されている民俗芸能を途切れさせまいと日々練習を行なっている団体、地域に遺された古い建物を活用しながら存続させようとしている団体など、これまでも様々な文化遺産に深い関わりを持って保存・活用を担って来た多くの既存組織があります。

これらの団体は、それぞれの活動を支える人々の熱い思いによって地域に貢献する活動を続けてきましたが、現状では、それぞれの団体の活動理念や活動目標に基づいた活動に留まっていて、お互いの活動内容についての情報の共有や活動の連携などが行なわれているとはいえません。また、担い手の高齢化や後継者不足などによって、活動が停滞している団体も見受けられます。

これからの江差町における文化遺産の保存・活用の考え方を示した「江差町歴史文化基本構想」の実践を進めていくためには、「宝箱」を構成する「江差のお宝」を担う人たちの連携が欠かせません。

そこで、「**工工町、江差 宝箱会議**」という新たな組織を作り、「江差町歴史文化基本構想」の考え方を広く啓発していくとともに、町内にある様々な団体が文化遺産の保存・活用について連携することができるような仕組みづくりに協力をしていきます【図表21】。

「**工工町、江差 宝箱会議**」は、これから文化遺産の保存・活用を担っていく町民が主体となりますが、幅広い知見を踏まえた意見を反映させるために町外の専門家にも加わってもらいます。また、江差町役場も構成員となってまちづくりに行かせるようにします。

「工工町、江差 宝箱会議」の構成	
1	町民
2	町外の専門家
3	行政
「工工町、江差 宝箱会議」が行なうこと	
1	町民などから「宝箱」のストーリーを募る。
2	募った「宝箱」の内容を検討する。
3	「宝箱」を認定する。
4	「宝箱」ごとの保存活用計画作成に協力する。

【図表 21】「工工町、江差 宝箱会議」の概要

「**工工町、江差 宝箱会議**」が行なう活動のイメージは、例えば世界遺産におけるユネスコと各国の関係に近いものです。世界遺産は、ユネスコが世界遺産リストを管理し、各国が世界遺産の保護や管理を行なっています。「**工工町、江差 宝箱会議**」も、町民などから提出された「**宝箱**」のストーリー内容を検討して認定する組織です。

しかし、「江差町歴史文化基本構想」では、「**宝箱**」の保存・活用についてすべてを担い手に託すのではなく、保存活用計画の作成など協力をしながら取り組んでいきます。

第8章 構想の実現へ向けて

これまで、今後の江差町における文化遺産の保存・活用についての構想を記してきました。「江差町歴史文化基本構想」は、まちづくりを視野に入れて行なう文化遺産の保存・活用のためのマスタープランですので、この構想を基にした今後の取り組みが十分に行なわれることが重要です。

そこで、今後「江差町歴史文化基本構想」の考え方を実現していくために必要と思われる課題を示します。

● 「江差のお宝」のデータベース化

「江差町歴史文化基本構想」の考え方を実現していくための基本的な作業です。

「**江差のお宝**」のデータベースは江差町教育委員会で管理をしますが、情報の収集は町民の協力がなければ行なうことができません。

今後立ち上げる「**エエ町、江差 宝箱会議**」の主な活動は「**宝箱**」の認定ですが、江差町教育委員会も協力をして、地域に入って「**江差のお宝**」を探していく活動や、「**宝箱**」のストーリーを補う「**江差のお宝**」探しをしていくことが求められます。

● 「宝箱」の見出し方

「**宝箱**」は、データベース化したいくつもの「**江差のお宝**」を、歴史的・地域的関連性（ストーリー）に基づいて一定のまとまりとして捉え、総体として保存・活用をしていくものです。

方法としては、ストーリーに関連するそれぞれの「**江差のお宝**」を担う個人や団体が自発的に「**宝箱**」を見出していく作業を行なうことが理想ですが、初めのうちは理想どおりに進まないことも想定されます。

「**エエ町、江差 宝箱会議**」は、「江差町歴史文化基本構想」の考え方を広く町民に啓発し、初期のいくつかの「**宝箱**」に関しては共同で見出す作業も求められるかもしれません。

また、これまで江差町内で活動してきた諸団体は、お互いの活動について相互協力をしあう取り組みがあまりされていませんでした。

その点においても、「**エエ町、江差 宝箱会議**」が音頭をとりながら、諸団体が会

合を開催する場の提供などを図っていくことが求められます。

●保存活用計画

「江差町歴史文化基本構想」では、文化遺産を総合的に保存・活用していくための保存活用計画を、「**宝箱**」ごとに作成していくこととしました。

この保存活用計画は、「**宝箱**」を構成するそれぞれの「**江差のお宝**」の担い手が作成することとなっています。

しかし、それぞれの文化遺産を総合的に保存・活用していくには、財政的な裏付けがなければ実施できないこともあります。

「**工工町、江差 宝箱会議**」には、町民や専門家だけではなく、江差町役場や江差町教育委員会も加わり、必要な支援などについての調整が求められます。

また、指定文化財については、「**宝箱**」ごとに作成する保存活用計画と関連させながら、江差町教育委員会が国や北海道との調整を図り、適切な文化財保護行政を進めていきます。

●「工工町、江差 宝箱会議」

これまで見てきたように、構想の実現へ向けては「**工工町、江差 宝箱会議**」の取り組みが重要です。

理想としては、「**工工町、江差 宝箱**」会議が行なうことは「**宝箱**」の認定ですが、諸団体が円滑に文化遺産の保存・活用を行なうことができるような連絡調整も求められるでしょう。

また、様々な活動を主催して、「江差町歴史文化基本構想」の考え方を普及啓発していくことも求められます。

●防災・防犯

町内の文化遺産を町民の力で保存・活用していても、ひとたび甚大な災害が起きれば一瞬で文化遺産が失われてしまいます。また、盗難などにも備えなければなりません。

データベース化した「江差のお宝」の担い手と連携しながら、防災・防犯の取り組みをさらに進めていく必要があります。

【資料】

【資料 1】 江差町歴史文化基本構想策定委員会設置要綱

(目的)

第 1 条 江差町内に所在する文化財を総合的にとらえたうえで、積極的な保存及び活用を図るための歴史と文化を活かした地域づくりのマスタープランとして、また、文化庁が認定する日本遺産申請に向けた「江差町歴史文化基本構想」を策定するために、江差町歴史文化基本構想策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(事業)

第 2 条 委員会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 地域における歴史文化に関する特徴の整理
- (2) 町内に所在する文化財の調査・把握
- (3) 歴史文化基本構想の策定
- (4) 歴史・文化的資源の保存活用計画の策定
- (5) 保存活用計画推進のための体制整備の検討
- (6) その他委員会の目的達成に必要なこと

(組織)

第 3 条 委員会の構成は、委員 15 名以内をもって構成する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱するものとする。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 江差町文化財調査委員会委員
- (3) その他町長が適当と認める者

3 町長は、事業の目的を達成するために必要があると認めたとき、または委員会からの要請に基づき、委員を追加で委嘱することができる。

4 委員会には必要に応じオブザーバーを置くことができる。

(委員などの任期)

第 4 条 委員の任期は、第 2 条の事業が終了するまでとする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に、委員長 1 名と副委員長 2 名を置く。

2 委員長は委員の互選による選任とし、副委員長は委員の中から委員長が指名する。

3 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときまたは欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、第2条に定める事業を遂行するため、必要に応じ関係者に対して会議への出席を求め、資料の提出、説明、その他必要な協力を求めることができる。

(調査部会)

第7条 委員会には第2条に定める事業を専門的に調査及び検討するため、江差町歴史文化基本構想調査部会（以下「調査部会」という。）を置く。

2 調査部会の部員は、町長が委嘱するものとする。

3 調査部会に、部長及び副部長各1名を置くこととし、選任は策定委員会委員長の指名による。

4 部長は会務を総括し、調査部会を代表する。

5 副部長は部長を補佐し、部長に事故あるときまたは欠けたときは、その職務を代理する。

6 調査部会は、調査の経過及び結果を委員会へ報告する。

7 部員の任期は、第4条に定める委員の任期と同じとする。

(報告)

第8条 委員長は、第2条に定める事業の成果を町長へ報告するものとする。

(事務局)

第9条 委員会の庶務は、教育委員会社会教育課地域文化係において行う。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は委員会が別に定める。

附則

この要綱は、平成27年6月17日から施行する。

【資料2】江差町歴史文化基本構想策定委員会

策定委員会

		氏 名	肩 書 き
1	委員長	濱田 暁生	(株) CIS計画研究所 代表取締役会長【都市計画】
2	副委員長	西山 徳明	北海道大学観光学高等研究センター センター長【文化遺産マネジメント】
3	副委員長	藤島 一巳	江差町文化財調査委員会 委員長【考古・郷土史】
4		角 幸博	北海道大学名誉教授【建築】
5		根本 直樹	北海道教育大学函館校 教授【人文地理・生涯学習】
6		舟山 直治	北海道博物館 学芸部長【民俗】
7		田才 雅彦	ヘリテイジマネージャー【文化財保護・考古】 (平成27年度はオブザーバーとして参加)
8		大古 正平	江差町文化財調査委員【建築】
9		釣賀 一二三	江差町文化財調査委員【自然】
10		藤枝 正承	江差町文化財調査委員 (～平成28年6月)【宗教・神職】
11		室谷 元男	江差町文化財調査委員【まちづくり】
12		新木 秀幸	江差町教育委員会 教育長 (～平成28年9月)
13		太田 誠	江差町教育委員会 教育長 (平成28年10月～)
14		出崎 雄司	江差町役場 まちづくり推進課長
15		大坂 敏文	江差町役場 追分観光課長
オブザーバー			
16		中井 將胤	文化庁 文化財部 記念物課 整備部門調査官
17		玉川 法之	北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課 主幹 (平成28年4月～)
18		木下 富美子	江差町地方創生推進本部顧問
19		水島 敦	北海道檜山振興局 地域創生部 地域政策課長 (平成28年6月～)

調査部会

		氏 名	肩 書 き
1	部会長	藤島 一巳	※策定委員会と兼ねる
2	副部会長	小笠原 明彦	えさし水土里の会 事務局長【農業振興】
3		増田 浩伸	江差観光コンベンション協会【観光】
4		宮崎 俊一	江差商工会 事務局長（～平成28年5月）【商工】
5		藤谷 真理子	ひやま漁協女性部江差支部 部長【漁業】
6		西海谷 朝子	江差観光ボランティアガイド協会【観光ガイド】
7		新木 秀幸	※策定委員会と兼ねる
8		太田 誠	※策定委員会と兼ねる
9		国仙 敏孝	江差町役場 まちづくり推進課 まちづくり推進係長
10		森 直彦	江差町役場 追分観光課 観光係長
11		兵庫谷 友美	江差町役場 産業振興課 商工係長
12		岸田 宏美	江差町役場 建設水道課 都市計画係
13		戸嶋 英樹	北海道檜山振興局 地域創生部 地域政策課 地域政策係長 (平成28年6月～)
14		吉田 年克	北海道教育庁 檜山教育局 教育支援課 教育支援係長 (平成28年6月～)

事務局

1		尾山 徹	江差町教育委員会 社会教育課長
2		宮原 浩	江差町教育委員会 社会教育主幹・学芸員【歴史】
3		奥山 さとみ	江差町教育委員会 社会教育課 地域おこし協力隊【考古】 (平成28年4月～)

* 個別の文化遺産について策定委員・調査部員でない専門家にも意見を仰いだ。

【資料3】 「江差町歴史文化基本構想策定委員会」 開催状況

年	月日	時間	会場	策定委員会	調査部会	主な内容
平成27年	8月3日	14:00～	第2委員会室	第1回 策定委員会	第1回 調査部会	委嘱／歴文構想の説明／スケジュール確認
	8月24日	15:00～	第2会議室		第2回 調査部会	地域文化財の収集方法
	10月16日	18:00～	第1会議室		第3回 調査部会	地域文化財の分類方法
	11月9日	14:00～	町内会議室	第2回 策定委員会		地域文化財の分類・活用方法
	12月16日	15:00～	第2会議室		第4回 調査部会	地域文化財の分類方法
平成28年	2月25日	13:00～	第2会議室		第5回 調査部会	地域文化財の分類方法
	3月2日	14:00～	第2委員会室	第3回 策定委員会		歴史文化の特徴／文化財把握の方針
	4月19日	15:00～	第2会議室		第6回 調査部会	関連文化財群
	4月26日	14:30～	第2委員会室	第4回 策定委員会		保存・活用の基本方針／関連文化財群
	6月6日	14:30～	第2委員会室	第5回 策定委員会		保存・活用の基本方針／関連文化財群
	6月29日	15:00～	第2会議室		第7回 調査部会	関連文化財群
	7月20日	14:30～	保健センター	第6回 策定委員会		関連文化財群
	8月22日	15:00～	第2会議室		第8回 調査部会	関連文化財群
	9月2日	14:30～	第2委員会室	第7回 策定委員会	第9回 調査部会	保存活用区域／保存活用計画／体制整備
	9月28日	14:30～	第2委員会室	第8回 策定委員会		全体の総括
	10月6日	15:00～	第2委員会室		第10回 調査部会	関連文化財群

【資料4】 江差町に所在する指定文化財一覧

No.	指定区分	名称	指定年月日
1	国 重要文化財	旧中村家住宅	昭和46. 12. 28
2	国 天然記念物	ヒノキアスナロ及びアオトドマツ自生地	大正11. 10. 12
3	道 有形文化財	法華寺寛保津波の碑	平成4. 3. 31
4	道 有形文化財	正覚院寛保津波の碑	平成4. 3. 31
5	道 有形文化財	旧檜山爾志郡役所庁舎	平成4. 3. 31
6	道 有形民俗文化財	江差姥神町横山家	昭和38. 12. 24
7	道 有形民俗文化財	江差姥神大神宮祭礼山車松寶丸及び附属品	昭和38. 12. 24
8	道 有形民俗文化財	江差姥神大神宮祭礼山車神功山人形及び附属品	昭和38. 12. 24
9	道 無形民俗文化財	江差沖揚音頭	昭和38. 12. 24
10	道 無形民俗文化財	五勝手鹿子舞	昭和38. 12. 24
11	道 無形民俗文化財	江差追分	昭和52. 4. 13
12	道 無形民俗文化財	江差三下り	昭和57. 6. 30
13	道 無形民俗文化財	江差餅つき囃子	昭和57. 6. 30
14	町 有形文化財	法華寺・八方睨みの龍の壁画	昭和46. 12. 5
15	町 有形文化財	法華寺・山門	昭和46. 12. 5
16	町 有形文化財	阿弥陀如来像（円空仏）	昭和52. 2. 17
17	町 有形文化財	来迎観音像（円空仏）	昭和52. 2. 17
18	町 有形文化財	来迎観音像（円空仏）	昭和52. 2. 17
19	町 有形文化財	霰庵の句碑	昭和52. 2. 17
20	町 有形文化財	関川家別荘	昭和56. 7. 14
21	町 有形文化財	金丸家住宅 母屋及び土蔵	昭和57. 7. 22
22	町 有形文化財	子安地藏菩薩像（木喰仏）	昭和62. 10. 27
23	町 有形文化財	地藏菩薩像（木喰仏）	昭和62. 10. 27
24	町 有形文化財	江差八勝の額	昭和62. 10. 27
25	町 有形文化財	「隆民殿」の額	昭和62. 10. 27

No.	指定区分		名称	指定年月日
26	町	有形文化財	松沢伊八翁紀念碑	平成3. 11. 26
27	町	有形文化財	瓊江丸紀念碑	平成3. 11. 26
28	町	有形文化財	尾山徹三先生之墓	平成3. 11. 26
29	町	有形文化財	開陽丸出土遺物	平成3. 11. 26
30	町	有形文化財	贈従五位鈴鹿甚右衛門之碑	平成3. 11. 26
31	町	有形民俗文化財	船絵馬 2枚	昭和56. 7. 14
32	町	有形民俗文化財	船絵馬	昭和62. 10. 27
33	町	有形民俗文化財	祭礼山車蛭子山水引猩々緋水引	平成11. 4. 19
34	町	有形民俗文化財	祭礼山車蛭子山人形御面相及び付属品	平成11. 4. 19
35	町	有形民俗文化財	祭礼山車豊年山水引唐子春秋之図	平成11. 4. 19
36	町	有形民俗文化財	祭礼山車豊年山水引日本三景之図	平成11. 4. 19
37	町	有形民俗文化財	祭礼山車聖武山人形御面相及び付属品	平成11. 4. 19
38	町	無形民俗文化財	江差土場鹿子舞	昭和48. 2. 5
39	町	無形民俗文化財	江差田沢鹿子舞	昭和48. 2. 5
40	町	無形民俗文化財	江差鹿子舞	昭和48. 2. 5
41	町	無形民俗文化財	江差鮫踊り	平成3. 11. 26
42	町	無形民俗文化財	江差追分踊り	平成7. 6. 13
43	町	無形民俗文化財	姥神大神宮渡御祭	平成28. 3. 24
44	町	史跡	戊辰の役戦死者の墳墓	昭和46. 12. 5
45	町	史跡	かもめ島砲台跡 2ヶ所	昭和56. 7. 14
46	町	史跡	北前船係船柱及び同跡 (かもめ島周辺)	昭和57. 7. 22
47	町	史跡	北前船飲用井戸	昭和57. 7. 22

【資料5】 江差町指定文化財の指定経緯

	号数	名称	区分	指定年月日	指定解除
第一次	第1号	戊辰の役戦死者の墳墓	史跡	昭和46年12月5日	
	第2号	法華寺・山門	有形文化財	昭和46年12月5日	
	第3号	大島爆発の供養塔（正覚院）	有形文化財	昭和46年12月5日	道指定へ
	第4号	大島爆発の供養塔（法華寺） （過去帳を含む）	有形文化財	昭和46年12月5日	道指定へ
	第5号	法華寺・八方睨みの龍の壁画	有形文化財	昭和46年12月5日	
第二次	第6号	江差追分	無形民俗文化財	昭和48年2月5日	道指定へ
	第7号	江差三下り	無形民俗文化財	昭和48年2月5日	道指定へ
	第8号	江差鹿子舞	無形民俗文化財	昭和48年2月5日	
	第9号	江差餅つき囃子	無形民俗文化財	昭和48年2月5日	道指定へ
	第10号	江差土場鹿子舞	無形民俗文化財	昭和48年2月5日	
	第11号	江差田沢鹿子舞	無形民俗文化財	昭和48年2月5日	
第三次	第12号	阿弥陀如来像（円空仏）	有形文化財	昭和52年2月17日	
	第13号	来迎観音像（円空仏）	有形文化財	昭和52年2月17日	
	第14号	来迎観音像（円空仏）	有形文化財	昭和52年2月17日	
	第15号	霰庵の句碑	有形文化財	昭和52年2月17日	

	号数	名称	区分	指定年月日	指定解除
第四次	第16号	関川家別荘	有形文化財	昭和56年7月14日	
	第17号	船絵馬 2枚	有形民俗文化財	昭和56年7月14日	
	第18号	かもめ島砲台跡 2ヶ所	史跡	昭和56年7月14日	
第五次	第19号	金丸家住宅 母屋及び土蔵	有形文化財	昭和57年6月30日	
	第20号	北前船係船柱及び同跡	史跡	昭和57年6月30日	
	第21号	北前船飲用井戸	史跡	昭和57年6月30日	
第六次	第22号	旧檜山郡役所及び旧江差警察署合同庁舎	有形文化財	昭和62年10月27日	道指定へ
	第23号	子安地蔵菩薩像（木喰仏）	有形文化財	昭和62年10月27日	
	第24号	地蔵菩薩像（木喰仏）	有形文化財	昭和62年10月27日	
	第25号	江差八勝の額	有形文化財	昭和62年10月27日	
	第26号	「隆民殿」の額	有形文化財	昭和62年10月27日	
	第27号	船絵馬	有形民俗文化財	昭和62年10月27日	
第七次	第28号	松沢伊八翁記念碑	有形文化財	平成3年11月26日	
	第29号	瓊江丸記念碑	有形文化財	平成3年11月26日	
	第30号	尾山徹三先生之墓	有形文化財	平成3年11月26日	

	号数	名称	区分	指定年月日	指定解除
第七次	第31号	開陽丸出土遺物	有形文化財	平成3年11月26日	
	第32号	江差鮫踊り	無形民俗文化財	平成3年11月26日	
	第33号	贈従五位鈴鹿甚右衛門之碑	有形文化財	平成3年11月26日	
第八次	第34号	江差追分踊り	無形民俗文化財	平成7年6月13日	
第九次	第35号	祭礼山車蛭子山水引猩々緋水引	有形民俗文化財	平成12年4月19日	
	第36号	祭礼山車蛭子山人形御面相及び付属品	有形民俗文化財	平成12年4月19日	
	第37号	祭礼山車豊年山水引唐子春秋之図	有形民俗文化財	平成12年4月19日	
	第38号	祭礼山車豊年山水引日本三景之図	有形民俗文化財	平成12年4月19日	
	第39号	祭礼山車聖武山人形御面相及び付属品	有形民俗文化財	平成12年4月19日	
第十次	第40号	姥神大神宮渡御祭	無形民俗文化財	平成28年3月24日	

【資料6】これまでの調査研究文献

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
1	明治34年	川竹駒吉		江差	
2	大正9年	村田弥六	小島大盛堂	純粹の江差追分節	
3	大正12年	江差築港起工式 祝賀会	江差築港起工式祝賀会	江差築港起工式祝賀会誌	
4	昭和8年	畑山定治	熊木書店	江差名勝と伝説	
5	昭和11年	鉄道省北海道建設 事務所	鉄道省北海道建設事務 所	江差線建設要覧	
6	昭和24年	伊藤源作	北海道大学農学部	北海道林業史の研究（I） 松前藩の林政について	北海道大学農学部演習林研究報告 14-2
7	昭和26年	中井昭	北海道立労働科学研究 所	本道漁業に於ける出稼労働者の生態 に就いて	江差町の出稼
8	昭和27年	江差町	江差町	史蹟と観光の江差（1952版）	
9	昭和28年	青函鉄道管理局	青函鉄道管理局	江差線木古内-江差間輸送力増強対策（線路増強） について	
10	昭和32年	斎藤正雄	北海道開発庁	檜山郡江差町および爾志郡乙部村附近の銀・鉛・マ ンガン・鉄・ドロマイト鉱床調査報告	「北海道地下資源調査資料」第30 号
11	昭和33年	江差町	江差町	新江差町建設計画書（現況編）	
12	昭和34年	江差町	江差町	江差港	
13	昭和34年	江差町	江差町	新江差町建設計画書 実施編 計画編	

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
14	昭和38年		ぷらや新書刊行会	ぷらや新書第17巻 真説江差の繁次郎	
15	昭和39年	江差町	江差町	江差町の文化財	
16	昭和39年	野村公	北海道学芸大学	民謡「江差追分」の研究 -音楽教科教育研究の立場から-	「北海道学芸大学紀要 第1部 教育科学編」15-2
17	昭和40年	越野武	一般社団法人日本建築学会	江差裁判所（明治22年）の建築について	「日本建築学会北海道支部研究発表会報告」24
18	昭和42年	野村公	北海道教育大学	江差追分の楽譜についての考察	「北海道教育大学紀要 第一部 C 教育科学編」18-1
19	昭和43年	小島美子／草野妙子／小柴はるみ／半谷宣子	社団法人東洋音楽学会	江差、松前のわらべ歌（その二）	「東洋音楽研究」23
20	昭和43年	小島美子／草野妙子／小柴はるみ／半谷宣子	社団法人東洋音楽学会	江差・松前のわらべ歌（その三）	「東洋音楽研究」24-25
21	昭和44年	小島美子／草野妙子／小柴はるみ／半谷宣子／樋口昭	社団法人東洋音楽学会	江差・松前のわらべ歌（その四・完）	「東洋音楽研究」26-27
22	昭和45年	北海道開発庁	北海道開発庁	5万分の1地質図幅説明書 札幌 第78号	
23	昭和45年	高橋功二／南孝雄	北海道立地下資源調査所	江差町かもめ島の小断層について	「地下資源調査所報告」第41号
24	昭和47年		ぷらや新書刊行会	ぷらや新書第47巻 江差花柳歳時記	
25	昭和47年	宮下正司	松前町史編集室	江差における廻船問屋の分析	松前藩と松前 創刊号－松前町史研究紀要－
26	昭和48年	榎森進	松前町史編集室	北海道近世史研究の諸問題（下）－研究史の当面の課題を中心に－	松前藩と松前 二号－松前町史研究紀要－

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
27	昭和48年	京田良志	松前町史編集室	松前家墓所の成立と越前石－越前石文化の北伝－	松前藩と松前 研究紀要－ 二号－松前町史研
28	昭和48年	榎森進	松前町史編集室	近世北海道の流通構造	松前藩と松前 研究紀要－ 四号－松前町史研
29	昭和47年	榎森進	松前町史編集室	北海道近世史研究の諸問題（上）－研究史の当面の課題を中心に－	松前藩と松前 研究紀要－ 創刊号－松前町史
30	昭和48年	海保嶺夫	松前町史編集室	北海道近世史の時代区分の意味について	松前藩と松前 研究紀要－ 四号－松前町史研
31	昭和48年	鈴江英一	北海道史研究会	北海道区－二級町村制成立についての小論（上）－いわゆる「特殊」性の問題をめぐって－	北海道史研究 創刊号
32	昭和49年	山本幹雄／	一般社団法人日本建築学会	江差町南ヶ丘住宅団地計画	「日本建築学会北海道支部研究報告集」42
33	昭和49年	鈴江英一	北海道史研究会	北海道区－二級町村制成立についての小論（下）－いわゆる「特殊」性の問題をめぐって－	北海道史研究 第二号
34	昭和49年	越崎宗一	北海道史研究会	終戦までの北海道内地方史誌	北海道史研究 第五号
35	昭和50年	北海道	北海道	道民意識調査の発言記録（1）－渡島広域生活圈（森町）－	
36	昭和50年	北海道	北海道	道民意識調査の発言記録（3）－桧山広域生活圈（江差町）－	
37	昭和50年	野村純一	至文堂	民話の人物造型－江差の繁次郎ほか－	「国文学解釈と鑑賞」第40巻12号
38	昭和50年	大森博雄	日本第四紀学会	北海道渡島半島江差付近の海岸段丘	「第四紀研究」14-2

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
39	昭和50年	千代肇	松前町史編集室	北海道考古学の問題点—道南の縄文時代以降を中心として—	松前藩と松前 七号—松前町史研究紀要—
40	昭和50年	石井勉	北海道史研究会	蝦夷地開拓と榎本艦隊将士	北海道史研究 第八号
41	昭和50年	阿部たつを	北海道史研究会	北海道の円空仏 その一異型について	北海道史研究 第九号
42	昭和51年	北海道商工観光部 工業課	北海道商工観光部工業課	江差町における工業立地の方向について	
43	昭和51年	野呂篤子／越野武／角幸博	一般社団法人日本建築学会	江差町集落の形成についての一考察	「日本建築学会北海道支部研究報告集」45
44	昭和51年	秋葉実	北海道史研究会	箱館府と開拓使初期の職制	北海道史研究 第一一号
45	昭和51年	海保嶺夫	松前町史編集室	松前藩家臣団の成立—道南における中世的世界の解体過程—	松前藩と松前 九号—松前町史研究紀要—
46	昭和52年	江差町史編集室		江差町史 第1巻 資料編1	
47	昭和52年	大須賀常良／	一般社団法人日本建築学会	アンケート分析による江差町住民の意識構造に関する研究	「学術講演梗概集 計画系」52
48	昭和52年	海保嶺夫	松前町史編集室	松前藩における職制の成立—延宝期から享保期までを中心に—	松前藩と松前 十号—松前町史研究紀要—
49	昭和52年	田端宏	松前町史編集室	「桧山騒動」の研究（1）—「騒動」の経過を中心に—	松前藩と松前 十一号—松前町史研究紀要—
50	昭和52年	海保嶺夫	北海道史研究会	開拓使官僚の系譜 —『明治官員録』（明治十三年）より—	北海道史研究 第一二号
51	昭和52年	薄木達郎	江さし草会	「江差」地名について	江さし草 第四号

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
52	昭和52年	市居克彦	江さし草会	祖母が話した開陽丸物語	江さし草 第五号
53	昭和53年	海保嶺夫	松前町史編集室	「和人地」成立の諸段階	松前藩と松前 十二号—松前町史研究紀要—
54	昭和53年	田端宏	松前町史編集室	「桧山騒動」の研究（2）—開拓使施政との関係を中心に—	松前藩と松前 十二号—松前町史研究紀要—
55	昭和53年	江差町史編集室		江差町史 第2巻 資料編2	
56	昭和53年		江差小学校開校百年記念協賛会 会長 久保政治	開校百年記念誌 遊鷗	
57	昭和54年	江差町史編集室		江差町史 第3巻 資料編3	
58	昭和54年	野田寿雄	日本歌謡学会	江差追分節の五種類	「日本歌謡研究」18
59	昭和54年	鈴江英一	松前町史編集室	和人地研究ノート—近世北海道地方（じかた）構造解明のための学説史的整理と展望—（上）	松前藩と松前 十四号—松前町史研究紀要—
60	昭和54年	脇哲	江さし草会	“戦う長藩” 駒井政五郎	江さし草 第十三号
61	昭和55年	鈴江英一	松前町史編集室	和人地研究ノート—近世北海道地方（じかた）構造解明のための学説史的整理と展望—（下）	松前藩と松前 十五号—松前町史研究紀要—
62	昭和55年	小山内忠司	松前町史編集室	松前藩における神官と神事—「白鳥氏日記」から—	松前藩と松前 十五号—松前町史研究紀要—
63	昭和55年	佐々木馨	松前町史編集室	松前仏教の中世的展望	松前藩と松前 十六号—松前町史研究紀要—
64	昭和55年	浅利政俊	松前町史編集室	日本教育史資料からみた近世北海道の私塾・寺子屋の教育	松前藩と松前 十六号—松前町史研究紀要—

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
65	昭和55年	海保嶺夫	北海道史研究会	史料による北海道史（一） 中世一 中世国家と蝦夷地	北海道史研究（22）
66	昭和55年	海保嶺夫	北海道史研究会	史料による北海道史（二） 中世二 戦国大名の成立	北海道史研究（23）
67	昭和55年	海保嶺夫	北海道史研究会	史料による北海道史（三） 近世一 統一政権と松前藩	北海道史研究（24）
68	昭和56年	江差町史編集室		江差町史 第4巻 資料編4（関川家文書）	
69	昭和56年	北海道商工観光部	北海道商工観光部	商店街近代化計画診断勧告書 江差中央商店街協同組合	
70	昭和56年	宮下正司	日本醸造協会	江差の酒造について（解題）	「日本醸造協会雑誌」76-5
71	昭和56年	森下満／足達富士夫／遠上尚一／木村仁／工藤一郎／南川仁志	社団法人日本建築学会北海道支部	江差の生活環境整備に関する研究－1. 町なみ景観について－	「日本建築学会北海道支部研究報告集. 計画系」№54
72	昭和56年	越野武／角幸博	一般社団法人日本建築学会	江差・旧檜山郡役所庁舎（明治20年）について	「日本建築学会北海道支部研究報告集. 計画系」56
73	昭和56年	鈴江英一	松前町史編集室	「支配」と「地頭」－和人地における藩制村成立に関する考察－	松前藩と松前 十七号－松前町史研究紀要－
74	昭和56年	小林真人	松前町史編集室	松前蝦夷地産俵物の生産と集荷－俵物役所直仕入制成立前後まで－	松前藩と松前 十七号－松前町史研究紀要－
75	昭和56年	田端宏	松前町史編集室	「帆船」についての考察－松前交易史の一側面－	松前藩と松前 十七号－松前町史研究紀要－
76	昭和56年	小山内忠司	松前町史編集室	松前藩における神官と神事（2）－「佐々木家文書」から－	松前藩と松前 十七号－松前町史研究紀要－

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
77	昭和56年	浅利政俊	松前町史編集室	教育内容から見た近世北海道の私塾・寺子屋の教育	松前藩と松前 研究紀要一 十七号一松前町史
78	昭和56年	佐々木馨	松前町史編集室	松前仏教の近代的展開	松前藩と松前 研究紀要一 十八号一松前町史
79	昭和56年	浅利政俊	松前町史編集室	近世北海道和人地に於ける子どもの世界史	松前藩と松前 研究紀要一 十八号一松前町史
80	昭和56年	板橋政樹	松前町史編集室	文政8年から天保8年における町奉行・町吟味役就任者と勤務状況	松前藩と松前 研究紀要一 十八号一松前町史
81	昭和56年	福島憲俊	松前町史編集室	明治以前の北海道における浄土真宗一浄願寺系譜と専念寺系譜をもとに一	松前藩と松前 研究紀要一 十八号一松前町史
82	昭和56年	海保嶺夫	北海道史研究会	史料による北海道史(四) 近世一 松前藩政の確立	北海道史研究(25)
83	昭和56年	海保嶺夫	北海道史研究会	史料による北海道史(五) 近世三 蝦夷地と幕藩制	北海道史研究(26)
84	昭和56年	海保嶺夫	北海道史研究会	史料による北海道史(六) 近世四 シャクシャインの戦い	北海道史研究(27)
85	昭和56年	小井田武	北海道史研究会	箱館戦争後方基地に眠る幕軍の将士	北海道史研究(28)
86	昭和56年	中西由多嘉	江さし草の会	観音寺の扁額	江さし草 第二十号
87	昭和57年	江差町史編集室		江差町史 第5巻 通説1	
88	昭和57年	江差追分会		江差追分	
89	昭和57年	坂本龍三	北海道武蔵女子短期大学	関川家文書にみる江差新聞縦覧場一その設立と運営について一	「北海道武蔵女子短期大学紀要」第14号

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
90	昭和57年	春日敏宏	松前町史編集室	松前藩成立期に関する一考察—家臣団編成を中心に—	松前藩と松前史研究紀要— 十九号—松前町
91	昭和57年	小林真人	松前町史編集室	藩主・藩士の手船所有と近世初期の松前海運	松前藩と松前史研究紀要— 十九号—松前町
92	昭和57年	海保嶺夫	北海道史研究会	史料による北海道史（七） 近世五幕藩制的蝦夷地対応体制の確立	北海道史研究（29）
93	昭和57年	関秀志	北海道史研究会	史料による北海道史（七） 近代七産業の発展	北海道史研究（29）
94	昭和58年	江差町史編集室		江差町史 第6巻 通説2	
95	昭和58年	江差町民話の会	江差町民話の会	江差の伝説と民話 江差ものがたり	
96	昭和58年	北海道商工観光部	北海道商工観光部	商店街近代化計画診断勧告書 昭和58年3月	
97	昭和58年	財団法人 観光資源保護財団	日本ナショナルトラスト	歴史のまち・江差 歴史的遺産の保全と活用	
98	昭和58年	春日敏宏	松前町史編集室	松前藩知行制の成立—商場知行制をめぐる二・三の問題—	松前藩と松前史研究紀要— 二十号—松前町史
99	昭和58年	宮下正司	短歌研究社	江差 -江差追分の源流-	「短歌研究」40-8
100	昭和58年	西海谷巖	江さし草の会	江差祭事記・江差山車人形の系図	江さし草 第二十八号
101	昭和58年	宮下節	江さし草の会	「北前船と大阪展」見聞記	江さし草 第二十九号
102	昭和59年	小林優幸	みやま書房	菅江真澄と江差浜街道	
103	昭和59年	佐々木利和	松前町史編集室	今井八九郎の蝦夷地図考—和人地関係図を中心に—	松前藩と松前史研究紀要— 二十一号—松前町

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
104	昭和59年	小林真人	松前町史編集室	商場知行制制立過程についての一考察	松前藩と松前 二十二号－松前町史研究紀要－
105	昭和59年	井上肇	江さし草会	江差追分尺八始祖 鷗嶋軒小路豊太郎の生涯	江さし草 第三十号
106	昭和59年	井上肇	江さし草会	江差追分尺八始祖 鷗嶋軒小路豊太郎の生涯（四）	江さし草 第三十三号
107	昭和60年	江差商工会	江差商工会	江差町地域振興ビジョン	
108	昭和60年	小島美子	第一法規出版	モンゴル民謡は江差追分のルーツか？	「月刊文化財」264
109	昭和60年	浪川健治	松前町史編集室	近世前期における松前・蝦夷地と北東北	松前藩と松前 二十四号－松前町史研究紀要－
110	昭和60年	脇哲	江さし草会	函館戦争・一聯隊戦史抄（1）	江さし草 第三十四号
111	昭和60年	井上肇	江さし草会	江差追分尺八始祖 鷗嶋軒小路豊太郎の生涯（五）	江さし草 第三十四号
112	昭和60年	脇哲	江さし草会	箱館戦争・一聯隊戦史抄（2）	江さし草 第三十五号
113	昭和60年	宮下節	江さし草会	虹のドルトレヒト（一）	江さし草 第三十五号
114	昭和60年	脇哲	江さし草会	箱館戦争・一聯隊戦史抄（3） 仮	江さし草 第三十六号
115	昭和60年	宮下節	江さし草会	虹のドルトレヒト（二）	江さし草 第三十六号
116	昭和60年	開本孝昭	江さし草会	江差と植物	江さし草 第三十七号
117	昭和60年	松村隆	江さし草会	円空・謎の魅力	江さし草 第三十七号
118	昭和60年	井上肇	江さし草会	江差追分尺八始祖のこと（上）	江さし草 第三十七号

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
119	昭和60年	宮下節	江さし草会	虹のドルトレヒト（三）	江さし草 第三十七号
120	昭和61年	江差町教育委員会	「北前船」編集委員会	北前船	
121	昭和61年		錐の会	（故）西海谷北龍遺作展記念誌	
122	昭和61年	脇哲	江さし草会	箱館戦争一聯隊戦史抄（3）	江さし草 第三十八号
123	昭和61年	館和夫	江さし草会	江差追分を二倍楽しむ法 古調追分の復興を	江さし草 第三十八号
124	昭和61年	井上肇	江さし草会	江差追分尺八始祖のこと（中）	江さし草 第三十八号
125	昭和61年	松村隆	江さし草会	円空・謎の魅力（二）	江さし草 第三十八号
126	昭和61年	宮下節	江さし草会	虹のドルトレヒト（四）	江さし草 第三十八号
127	昭和61年	井上肇	江さし草会	江差追分尺八始祖のこと（下）	江さし草 第三十九号
128	昭和61年	松村隆	江さし草会	円空・謎の魅力（三）	江さし草 第三十九号
129	昭和61年	宮下節	江さし草会	虹のドルトレヒト（五）	江さし草 第三十九号
130	昭和61年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（一） 揚の切腹	ミステリー・榎本武 江さし草 第四十号
131	昭和61年	松村隆	江さし草会	円空・謎の魅力（四）	江さし草 第四十号
132	昭和61年	宮下節	江さし草会	虹のドルトレヒト（六）	江さし草 第四十号
133	昭和61年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（二） 燃ゆる“蝦夷日光”	江さし草 第四十一号
134	昭和61年	松村隆	江さし草会	円空・謎の魅力（五）	江さし草 第四十一号

番号	年	著者・編者	発行	タイトル		所収
135	昭和62年	江差町／江差中央商店街協同組合	江差町	北海道江差町における都市計画街路整備事業と商店街近代化事業の概況		
136	昭和62年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（三）	朝陽・幻の黄金	江さし草 第四十二号
137	昭和62年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（四）	山に潜った男	江さし草 第四十三号
138	昭和62年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（五）	伊庭八郎の写真	江さし草 第四十四号
139	昭和62年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（六）	山に潜った男	江さし草 第四十五号
140	昭和63年	杉村弘	信州大学教育学部	江差追分源流考 -上-		「信州大学教育学部紀要」64
141	昭和63年	安達整	江さし草会	北の円空・木喰（一）		江さし草 第四十六号
142	昭和63年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（七）	千代ヶ岡軍談幻の敵兵	江さし草 第四十六号
143	昭和63年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（八）	新八と東七郎	江さし草 第四十七号
144	昭和63年	安達整	江さし草会	北の円空・木喰（二）		江さし草 第四十七号
145	昭和63年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（八）	会談の内幕	江さし草 第四十八号
146	昭和63年	安達整	江さし草会	北の円空・木喰（三）		江さし草 第四十八号
147	昭和63年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争（九）	開陽丸幻のガトリング・ガン	江さし草 第四十九号
148	昭和63年	安達整	江さし草会	北の円空・木喰（五）		江さし草 第四十九号
149	平成元年	館和夫	北海道新聞社	道新選書13 江差追分物語		

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
150	平成元年	函館開発建設部江差港湾建設事務所	函館開発建設部江差港湾建設事務所	江差港湾 ー江差港湾建設事務所15周年記念誌ー	
151	平成元年	江差町教育委員会	江差町教育委員会	江差町茂尻C遺跡	
152	平成元年	杉村弘	信州大学教育学部	江差追分源流考 ー中ー	「信州大学教育学部紀要」65
153	平成元年	森下満	一般社団法人日本建築学会	江差の町並景観の変化に関する研究	「建築雑誌 建築年報」1989
154	平成元年	河野竜夫／	一般社団法人日本建築学会	江差之町並景観の変化に関する研究 その1	「学術講演梗概集 F」1989
155	平成元年	白石真也／	一般社団法人日本建築学会	江差の町並景観の変化に関する研究 その2	「学術講演梗概集 F」1989
156	平成元年	森下満／足達富士夫／野口孝博／大和田英生／辻井順／河野竜夫／白石真也	社団法人日本建築学会北海道支部	江差の町並景観の変化に関する研究	「日本建築学会北海道支部研究報告集 計画系」№62
157	平成元年	濱田暁生／後藤達也	彰国社	江差・うみ-かぜ-うたの町づくり--アトリエブク(行動する地域の建築家たち<特集>)	「建築文化」№. 509
158	平成元年	井上肇	江さし草会	文学にみる江差(松前)追分(四)	江さし草 第五十号
159	平成元年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争(十) 開陽丸断章	江さし草 第五十号
160	平成元年	井上肇	江さし草会	文学にみる江差(松前)追分(五)	江さし草 第五十一号
161	平成元年	菊地滴翠	江さし草会	北前船まつり	江さし草 第五十一号
162	平成元年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争(十一) 南海紀行	江さし草 第五十一号
163	平成元年	脇哲	江さし草会	秘められた箱館戦争(十二) みちのく紀行	江さし草 第五十二号

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
164	平成元年	井上肇	江さし草会	文学にみる江差（松前）追分（六）	江さし草 第五十二号
165	平成2年		江差町	江差町林業振興地域整備計画書	
166	平成2年	柏倉清	教育書籍	軍艦開陽丸	
167	平成2年	園田浩之／	一般社団法人日本建築学会	江差の景観構造に関する研究	「建築雑誌 建築年報」89
168	平成2年	園田浩之／	一般社団法人日本建築学会	江差の地割変化と街区構造に関する研究	「建築雑誌 建築年報」89
169	平成2年	三ツ江匡弘／	一般社団法人日本建築学会	江差の町並み景観に関する研究 -景観構造と地域住民の町並み保存意識-	「学術講演梗概集 F」1990
170	平成2年	河野竜夫／足達富士夫／野口孝博／森下満／辻井順／三ツ江匡弘／浅野順子／加地則之	社団法人日本建築学会北海道支部	江差の景観構造に関する研究	「日本建築学会北海道支部研究報告集」№63
171	平成2年	園田浩之／足達富士夫／野口孝博／森下満／辻井順／河野竜夫／三ツ江匡弘／浅野順子／福永敏之	社団法人日本建築学会北海道支部	江差の地割変化と街区構造に関する研究	「日本建築学会北海道支部研究報告集」№63
172	平成3年	杉村弘	信州大学教育学部	江差追分考 -下-	「信州大学教育学部紀要」74
173	平成4年	宮良高弘	江差町	江差町の社会と民俗 1 愛宕・中歌・姥神・津花の事例	
174	平成5年	江差民話研究会	江差民話研究会	江差百話	
175	平成5年	宮良高弘	江差町	江差町の社会と民俗 2 五勝手の事例	
176	平成6年	江差町史編集室		江差町史 第7巻 資料編5	

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
177	平成6年	江差町史編集室		江差町史 第9巻 通説3	
178	平成6年	宮良高弘	江差町	江差町の社会と民俗3 北部地区の事例	
179	平成6年	三輪滋／	一般社団法人日本建築学会	1993年北海道南西沖地震の本震と余震における江差町水堀地区の再液状化	「学術講演梗概集 B 構造T」1994
180	平成6年	阿波田謙一／足達富士夫／野口孝博／森下満／辻井順	社団法人日本建築学会北海道支部	江差町の「歴史を生かすまちづくり」事業に関する研究－いにしえ街道沿いのまちなみ変化と住民意識－	「日本建築学会北海道支部研究報告集」№67
181	平成6年	矢木明夫	東北学院大学学術研究会	江差江商問屋経営の一事例 -幕末維新期の黒屋-	「東北学院大学論集 経済学」125
182	平成6年	加藤健二／都司嘉宣	東京大学	1993年北海道南西沖地震の断層要素の推定とその津波の特性	「東京大学地震研究所彙報」69
183	平成7年	江差町史編集室		江差町史 第10巻 通説4	
184	平成7年			江差町古文書資料調査所蔵目録 平成3年度～6年度	
185	平成7年	松村隆	北海道みんぞく文化研究会	漁師一代沖上音頭に生きる -江差・藤谷喜三郎氏からの聞き書-	「北海道を探る」№28 個人史と民俗文化
186	平成8年	北海道開発局函館開発建設部 江差港湾建設事務所	北海道開発協会	江差港沿革史	
187	平成8年	江差町	江差町	江差町役場新庁舎建設事業概要	
188	平成8年	日比野晃	中日本自動車短期大学	北海道の祭礼における「ヤマ」 -江差の姥神大神宮祭と箱館八幡宮祭の場合-	「中日本自動車短期大学論集」26
189	平成8年	山田志乃布	歴史地理学会	近世後期における港町の機能 -松前地江差を事例として-	「歴史地理学」38-1

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
190	平成9年	江差町史編集室		江差町史 第8巻 年表・索引	
191	平成9年	江差町史編集室		江差町史 第11巻 通説5	
192	平成9年	江差町史編集室		写真で見る江差町史	
193	平成9年	山田志乃布	お茶の水女子大学	安政期における蝦夷地通船 -江差を中心として-	「お茶の水女子大学人文科学起用」50
194	平成10年		歴史を生かした町づくりネットワーク推進協議会	歴史を生かした町づくりネットワーク <江差・上ノ国・松前>3町広域観光振興計画基本構想報告書	
195	平成10年	近藤洋介／	一般社団法人日本建築学会	地域性にもとづく生活景観に生成フレーム 江差町・津別町・富良野市を事例にして	「学術講演梗概集」1998
196	平成10年	堀切実	早稲田大学国文学会	江差の鯨待雑俳 -地方俳諧史の一面-	「国文学研究」124
197	平成11年	江差観光協会		江差姥神大神宮渡御祭 祭図録	
198	平成11年	江差追分再興五十年記念誌編集委員会	江差追分会	江差追分再興五十年記念誌 風濤成歌 江差追分	
199	平成11年	松本周介／越野武／角幸博／石本正明／池上重康	社団法人日本建築学会北海道支部	歴史的景観形成過程に見る行政とまちづくり団体の関わりについて-函館と江差を事例として-	「日本建築学会北海道支部研究報告集」№72
200	平成11年	山田志乃布	人文地理学会	幕末における鮮集荷システムの再編 -北海道西海岸を事例にして-	「人文地理」51巻第1号
201	平成12年	江差町古文書資料調査委員会	江差町教育委員会	江差町所蔵資料目録1 ヤマシユ関川家資料目録	
202	平成12年	山田志乃布	歴史地理学会	幕末蝦夷地の絵図にみる地域情報の把握 -「江差沖ノ口備付西蝦夷地御場所絵図」を事例として-	「歴史地理学」42巻第2号

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
203	平成12年	「百印百詩」を読む編集委員会	江差町の歴史を紀行し友好を進める会	百印百詩を読む	
204	平成13年	江差商工会	江差商工会	江差町タウンマネージメント構想素案	
205	平成13年	舟山直治	北海道開拓記念館	近世期以降における和人とアイヌ民族の文化接触による水神信仰の変容について	「北海道開拓記念館研究紀要」第29号
206	平成13年	林昇太郎／水島未記／手塚薫	北海道開拓記念館	『蝦夷草木図』写本の比較	「北海道開拓記念館研究紀要」第29号
207	平成13年	梅原 達治	北海道文化財保護協会	小山悪四郎判官隆政ノ事	北海道の文化 7 3
208	平成14年	檜山南部地区営農推進連絡協議会／各町農業振興プラン検討委員会／檜山南部地区農業改良普及センター	檜山南部地区営農推進連絡協議会／各町農業振興プラン検討委員会／檜山南部地区農業改良普及センター	担い手がのこれる21世紀の檜山南部農業を拓く（江差町・上ノ国町・乙部町・熊石町・奥尻町・厚沢部町総合編）	
209	平成14年	松村俊昭	公職研	成熟社会の新・市民参加論－分権時代の住民自治を求めて 江差地域大学－自己変革から地域変革へ－ 補助金に頼らない自立型生活学習の20年－	「地方自治職員研修」第35巻№1 通巻477号
210	平成14年	菊地達夫	北海道浅井学園大学生涯学習研究所	江差町における街並み環境整備事業と住民意識－伝統的建造物群の保存と活用をめぐる－	「生涯学習と実践」3
211	平成14年	谷野喜久子／細野衛／鈴木正章／渡邊眞紀子／青木久美子		北海道、渡島半島江差砂丘のクロスナ層	
212	平成15年	江差町役場企画振興課	江差町	江差町地域新エネルギービジョン報告書	
213	平成15年	蛭田眞一	北海道教育大学釧路校釧路論集編集委員会	北海道南部江差町砂浜の海産間隙動物について	「釧路論集」 北海道教育大学釧路校研究紀要 第34号
214	平成15年	谷野喜久子／細野衛／鈴木正章／渡邊眞紀子／青木久美子	日本第四紀学会	渡島半島、江差砂丘の構成粒子からみた理化学的性状	「第四紀研究」42-4

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
215	平成15年	菊地達夫	北翔大学	学校教育機関における地域資源の活用実態 -北海道江差町を事例として-	北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要「生涯学習研究と実践」4
216	平成16年	北海道近代建築研究会	北海道新聞社	道南・道央の建築探訪	
217	平成16年	北海道建設部砂防防災課	北海道	土砂災害危険箇所図 函館土木現業所管内2/2	
218	平成16年	酒井多加志	北海道教育大学	北海道の港湾の史的展開	北海道教育大学釧路校研究紀要「釧路論集」36
219	平成16年	菊地達夫	北翔大学	伝統的建造物群を活用したまちづくりについての住民評価 -北海道江差町を事例として-	北海道浅井学園大学生涯学習研究所研究紀要「生涯学習研究と実践」6
220	平成16年	三浦泰之	北海道開拓記念館	近世後期の松前三湊における芸能興行と旅人宿 -天保12年(1841)における越後の「中芝居」一座の松前・江差興行に事例から-	「北海道開拓記念館研究紀要」第32号
221	平成17年	吉田光宏		北海道の山・川・海をつなぐ(5・完) 江差町が一丸となって進めるニシン文化の再興 -資源増大プロジェクトによる大漁と「木北限の桐」復活を願って-	「農林経済」9736
222	平成17年	草間孝廣		箱館戦争の招魂祭儀と社人 -江差招魂場の事例から-	「神道宗教」199・200
223	平成17年	ひやま漁業協同組合江差潜水部	漁村文化協会	研究報告・技術と経営 浜の活性化は俺たちから -新規漁業の起業を目指して-	「漁村」71-6
224	平成18年	山田佑平	山田佑平	旧幕府軍艦開陽丸図面の調査概要 江差町の開陽丸の図面調査	
225	平成18年	佐々木絵美		北海道函館市旧榎法華村における「榎」表記についての考察	日本漢字能力検定協会 漢検漢字文化研究論文 漢検漢字文化研究奨励賞佳作作品
226	平成18年	松村隆	北海道新聞社	たば風に唄う 江差追分 青坂満	

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
227	平成18年	宮原浩	清文堂出版	日本海交流の中の江差	「日本海域歴史体系」第5巻
228	平成18年	田島佳也	神奈川大学日本常民文化研究所 非文字資料研究センター	屏風絵を読むにあたって - 「江差松山屏風」の読み取り体験から-	「非文字資料研究 News Letter」11
229	平成19年	藤平吉郎		江差町歴まち商店街(北海道檜山郡江差町)が元気な理由5 -組合員の結束を深めるイベント開催(北海道から九州まで全国横断! 元気印商店街25の理由)-	「商業会」60-2
230	平成19年	木戸雄一		明治初期の江差町における書物の流通 -江差町郷土資料館蔵関川家文書を中心に- (第3回 調査研究シンポジウム報告(平成19年6月7日))	「調査研究報告」28
231	平成19年	菊地達夫		北海道江差町の伝統的建造物群における観光行動と情報活用の実態	「観光研究論集」6
232	平成19年		神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議	神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書 日本近世生活絵引 北海道編	
233	平成19年	田島佳也	神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議	『日本近世生活絵引』の作成をめざして -近世の北陸農村と松前地漁村の人々の暮らしと生業-	「非文字資料研究 News Letter」16
234	平成20年	舟山直治/手塚薫/池田貴夫	北海道開拓記念館	北海道における鹿子舞とその伝承 -物質文化から見えるもの-	「北海道開拓記念館研究紀要」第36号
235	平成20年	阿部志朗	人文地理学会	江戸明治期の北前船による石見焼の流通とその背景 -「はんど」と呼ばれる水甕を中心として-	「人文地理学会大会 研究発表要旨」2008
236	平成21年	防災科学技術研究所	防災科学技術研究所	地すべり地形分布図 第43号	
237	平成21年	阿部志朗		日本海沿岸地域における「石見焼」の分布とその特色 -とくに北海道の日本海沿岸市町村を中心に-	「人文地理学会大会 研究発表要旨」2009

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
238	平成21年	舟山直治	北海道開拓記念館	北海道における鹿子頭の再利用に関する研究	「北海道開拓記念館研究紀要」第37号
239	平成21年	東俊佑	北海道開拓記念館	北蝦夷地における直捌の展開と越後差配人の漁場開設	「北海道開拓記念館研究紀要」第37号
240	平成22年	桜井拓郎		江差商人関川平四郎の辞世句について	「日本の中の異文化」7
241	平成22年	佐々木達夫／野上建紀／佐々木花江		青森県むつ市・北海道松前町・上ノ国町・江差町・函館市の水中文化遺産	「金大考古」68
242	平成22年	白木里恵子／大垣直明／久保勝裕		歴史的市街地の再生を目指した連鎖的事業展開に関する研究 -北海道江差町を事例として-	「日本建築学会計画系論文集」75
243	平成22年	萬司		江差（北海道）に伝わる民謡の教材分析と指導計画に関する考察 -「我が国の伝統的な歌唱の実現」を取り扱う授業開発-	「日本学校音楽教育実践学会紀要」14
244	平成22年	阿部敏夫		中村純三版『江差の繁次郎』話生成とその影響	「北星論集（文）」47-2
245	平成22年	磯部敦	国文学研究資料館	江差皇学舎と平田国学 -江差町郷土資料館の調査をとおして-	「調査研究報告」31
246	平成23年	桜井拓郎		柴田可然作「蓼窓高哲別荘月見辨」（江差「関川家文書」）について	「日本の中の異文化」第8号
247	平成23年	浦野宏美／野村理恵／森傑		住み込み型研究室滞在を通してみる江差町の資源と可能性 過疎化地方小都市におけるまちづくりの活性化支援に関する研究	学術講演梗概集
248	平成23年	佐藤翔悟／谷口尚弘／大友拓哉	社団法人 日本建築学会北海道支部	地方都市におけるまちづくり展開に関する実践的研究 -江差町におけるフットパス制作をとおして-	「日本建築学会北海道支部研究報告集」№84

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
249	平成23年	谷口尚弘／佐藤翔悟／大友拓哉		江差町におけるまちづくり活動と評価 フットパス制作をとおして	「住まい・環境教育学会論文報告集」9
250	平成23年	谷口尚弘／佐藤翔悟／大友拓哉		江差町におけるまちづくり活動と評価 住民・子ども参加のワークショップによるポケットパーク整備	「住まい・環境教育学会論文報告集」9
251	平成23年	杉浦清志	北海道教育大学語学文学会	江差の古典籍一 -関川家旧蔵書-	「語学文学」第49号
252	平成23年	舟山直治	北海道開拓記念館	北海道南西部、檜山地方中南部の神社祭祀	「北海道開拓記念館研究紀要」第39号
253	平成23年	鈴木琢也	北海道開拓記念館	北海道における7～9世紀の土器の特性と器種組成様式	「北海道開拓記念館研究紀要」第39号
254	平成23年	三浦泰之	北海道開拓記念館	資料紹介 松前藩足軽木村源吉『公私日記』-近世後期における松前藩足軽の職務と日常生活-	「北海道開拓記念館研究紀要」第39号
255	平成24年	荒井三津子／杉村留美子／片村早花／佐藤理紗子／太田垣恵／鈴木恵		餅菓子文化の伝承 -北海道における『べこもち』の歴史と地域性-	「北海道文教大学研究紀要」第36号
256	平成24年	桜井拓郎		江差商人関川平四郎（一鼎）の俳誌・俳書等掲載句について	「日本の中の異文化」第9号
257	平成25年	関根達人		函館・江差の近世墓標と石造物 中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究	
258	平成25年	佐々木均		北海道江差町と幌延町に公共牧場における吸血性アブ類	「衛生動物」64-4
259	平成25年	荒井三津子／杉村留美子／片村早花／佐藤理紗子／太田垣恵		餅菓子文化の伝承 第Ⅱ報 -江差・上ノ国・松前の「べこもち」-	「北海道文教大学研究紀要」第37号

番号	年	著者・編者	発行	タイトル	所収
260	平成26年	白鳥圭志	青木書店	産業化から取り残された地域における地方資産家の投資活動 -明治末期から大正初期、北海道江差町、関川合資会社・関川茂平家の事例-	「歴史学研究」№. 918
261	平成26年	萬司		江差（北海道）に伝わる民謡の教材化 「我が国の伝統的な歌唱」を取り扱う授業開発	「民俗音楽研究」39号
262	平成28年	室谷元男	一般財団法人 日本地域開発センター	再現「江差の五月は江戸にもない！」 ～津軽海峡圏民の連携による人づくり・町づくり～	「地域開発」Vol. 611

【資料7】収集した「江差のお宝」

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00001	不動産	実物	旧中村家住宅	中歌町
00003	不動産	実物	法華寺寛保津波の碑	本町
00004	不動産	実物	正覚寺寛保津波の碑	本町
00005	不動産	実物	旧檜山爾志郡役所	中歌町
00006	不動産	実物	横山家	姥神町
00014	不動産	実物	八方睨みの龍	本町
00015	不動産	実物	法華寺山門	本町
00019	不動産	実物	霰庵の句碑	姥神町
00020	不動産	実物	旧関川家別荘	豊川町
00021	不動産	実物	金丸家住宅	橋本町
00026	不動産	実物	松沢伊八翁記念碑	本町
00027	不動産	実物	瓊江丸記念碑	本町
00028	不動産	実物	尾山徹三先生之墓	緑丘
00030	不動産	実物	鈴鹿甚右衛門之碑	姥神町
00044	不動産	実物	鷗島の井戸	鷗島
00053	不動産	実物	開陽丸	姥神町
00057	不動産	実物	江差追分会館	中歌町
00058	不動産	実物	江差山車会館	中歌町
00059	不動産	実物	江差追分歌詞の碑	中歌町
00061	不動産	実物	江差追分の道場	不特定
00068	不動産	実物	繁次郎の像	尾山町
00071	不動産	実物	正覚院	本町
00081	不動産	実物	関川家文書と土蔵	豊川町
00082	不動産	実物	タイラ時計店	不特定
00087	不動産	実物	法華寺	本町
00088	不動産	実物	冬囲い	不特定
00095	不動産	実物	瓶子岩	鷗島

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00096	不動産	実物	旧江差駅舎	陣屋町
00167	不動産	実物	大山神社	鯨川町
00168	不動産	実物	大谷地速玉稻荷神社	朝日町
00169	不動産	実物	若宮神社	小黒部町
00170	不動産	実物	若宮神社の鳥居	小黒部町
00171	不動産	実物	若宮神社の狛犬	小黒部町
00172	不動産	実物	若宮神社の石灯籠	小黒部町
00178	不動産	実物	大円寺	小黒部町
00179	不動産	実物	庚申塔	小黒部町
00181	不動産	実物	中網稻荷神社	中網町
00182	不動産	実物	豊丘大神	越前町
00183	不動産	実物	開拓碑	越前町
00184	不動産	実物	水堀稻荷神社	水堀町
00186	不動産	実物	水堀稻荷神社の狛犬	水堀町
00188	不動産	実物	井越和吉翁の碑	水堀町
00189	不動産	実物	恵水農興の碑	水堀町
00190	不動産	実物	巴まさり顕彰の碑	水堀町
00191	不動産	実物	上林福太郎先生像	水堀町
00193	不動産	実物	八幡神社	柳崎町
00197	不動産	実物	庚申塚	柳崎町
00198	不動産	実物	柳崎地藏堂	柳崎町
00203	不動産	実物	川裾神社	伏木戸町
00204	不動産	実物	田沢稻荷神社	田沢町
00207	不動産	実物	田沢稻荷神社の鳥居	田沢町
00208	不動産	実物	飯田家住宅	田沢町
00209	不動産	実物	トノマのトンネル	田沢町
00210	不動産	実物	岩城神社	尾山町
00211	不動産	実物	岩城神社の狛犬	尾山町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00217	不動産	実物	観音寺	泊町
00218	不動産	実物	八幡神社	泊町
00219	不動産	実物	八幡神社の鳥居	泊町
00220	不動産	実物	大潤稲荷神社	大潤町
00222	不動産	実物	愛宕神社	愛宕町
00225	不動産	実物	豊川神社	豊川町
00226	不動産	実物	豊川神社の石灯籠	豊川町
00228	不動産	実物	金剛寺	中歌町
00229	不動産	実物	真宗大谷派江差別院	中歌町
00230	不動産	実物	真宗大谷派江差別院の手洗石	中歌町
00231	不動産	実物	佐之市の碑	中歌町
00232	不動産	実物	姥神大神宮拝殿	姥神町
00233	不動産	実物	姥神大神宮本殿	姥神町
00234	不動産	実物	姥神大神宮の玉垣	姥神町
00235	不動産	実物	県社姥神大神宮の碑	姥神町
00236	不動産	実物	姥神大神宮の手洗石	姥神町
00238	不動産	実物	清水谷公考の和歌の木碑	姥神町
00239	不動産	実物	折居社	姥神町
00240	不動産	実物	天満宮	姥神町
00241	不動産	実物	姥神大神宮の鳥居	姥神町
00244	不動産	実物	姥神大神宮狛犬	姥神町
00245	不動産	実物	壺番蔵	姥神町
00246	不動産	実物	皐月蔵チャミセ	姥神町
00248	不動産	実物	対鷗館	上野町
00249	不動産	実物	法華寺境内の笏谷石の敷石	本町
00250	不動産	実物	檜山護国神社	本町
00252	不動産	実物	忠魂碑	本町
00253	不動産	実物	新政府軍墓地の手洗石	本町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00254	不動産	実物	新政府軍墓地の石灯籠	本町
00255	不動産	実物	檜山護国神社の石灯籠	本町
00256	不動産	実物	百印百詩の石碑	本町
00257	不動産	実物	笹浪精肉店	本町
00258	不動産	実物	熊木書店	本町
00259	不動産	実物	大沼歯科医院の笏谷石の蔵	本町
00260	不動産	実物	巖島神社	鷗島
00261	不動産	実物	巖島神社の鳥居	鷗島
00262	不動産	実物	巖島神社の鳥居柱	鷗島
00263	不動産	実物	巖島神社の手洗石	鷗島
00264	不動産	実物	巖島神社の狛犬	鷗島
00265	不動産	実物	イワシ定置網標石	鷗島
00270	不動産	実物	江差追分節記念碑	鷗島
00271	不動産	実物	皇太子殿下御婚礼記念林の石碑	鷗島
00272	不動産	実物	高橋謹齋翁記念碑	鷗島
00273	不動産	実物	小路豊太郎の碑	鷗島
00274	不動産	実物	馬岩	鷗島
00275	不動産	実物	浜田喜一の像	鷗島
00277	不動産	実物	福広稲荷神社	茂尻町
00278	不動産	実物	賢光稲荷神社	新地町
00279	不動産	実物	庚申塔	新地町
00280	不動産	実物	西山平十郎の墓	緑丘
00281	不動産	実物	市来政胤の墓	緑丘
00282	不動産	実物	福沢熊太郎の墓	緑丘
00283	不動産	実物	阿弥陀寺	円山
00284	不動産	実物	檜山神社	陣屋町
00285	不動産	実物	権現寺	南浜町
00286	不動産	実物	柏森神社	柏町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00288	不動産	実物	馬頭観音菩薩堂	柏町
00293	不動産	実物	笹山稻荷神社	笹山
00312	不動産	実物	堀井家住宅	姥神町
00313	不動産	実物	檜山商事向土蔵	姥神町
00314	不動産	実物	檜山商事横土蔵	姥神町
00315	不動産	実物	西川家住宅	姥神町
00316	不動産	実物	紺谷淳一土蔵	中歌町
00317	不動産	実物	平野土蔵	姥神町
00318	不動産	実物	若山家住宅	中歌町
00319	不動産	実物	田島土蔵	中歌町
00320	不動産	実物	高橋土蔵	姥神町
00321	不動産	実物	岩佐家土蔵	中歌町
00322	不動産	実物	木村家住宅	中歌町
00323	不動産	実物	辻仁店舗兼住宅	姥神町
00324	不動産	実物	平井良治住宅	姥神町
00325	不動産	実物	齊藤弘文住宅	姥神町
00326	不動産	実物	北山家土蔵	姥神町
00327	不動産	実物	小田原家土蔵	中歌町
00328	不動産	実物	高山政次郎（住宅）	中歌町
00329	不動産	実物	岩崎晴二（住宅）	姥神町
00330	不動産	実物	関川家住宅	中歌町
00331	不動産	実物	辻仁土蔵	姥神町
00332	不動産	実物	濱谷家住宅	姥神町
00333	不動産	実物	鳴海家土蔵	姥神町
00334	不動産	実物	向山家住宅	姥神町
00335	不動産	実物	加川秀男住宅	中歌町
00336	不動産	実物	九艘川橋の欄干	中歌町
00338	不動産	実物	江差町道路元標	中歌町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00339	不動産	実物	江差町会所会館	中歌町
00345	不動産	実物	アネロイド気圧計	姥神町
00346	不動産	実物	江差港防波堤起点	姥神町
00359	不動産	実物	常夜灯	本町
00361	不動産	実物	九艘川	中歌町
00362	不動産	実物	清水三四郎の墓	本町
00364	不動産	実物	北海漁祖折居社旧跡の碑	姥神町
00381	不動産	実物	中網稲荷神社の狛犬	中網町
00387	不動産	実物	九艘川公園の土蔵トイレ	中歌町
00391	不動産	実物	法華寺坂途中の祠	姥神町
00392	不動産	実物	土方歳三嘆きの松	中歌町
00397	不動産	実物	矢代鍛冶屋	津花町
00405	不動産	実物	ノコロップ岩	不特定
00408	不動産	実物	川裾神社の石灯籠	伏木戸町
00409	不動産	実物	川裾神社の鳥居	伏木戸町
00410	不動産	実物	稻荷	伏木戸町
00411	不動産	実物	寂照庵	伏木戸町
00417	不動産	実物	かまぼこケーソン	姥神町
00480	不動産	実物	子安地蔵像	小黒部町
00481	不動産	実物	地蔵像	小黒部町
00482	不動産	実物	水子地蔵尊像	小黒部町
00484	不動産	実物	馬頭観世音菩薩の石碑	小黒部町
00485	不動産	実物	畜霊塔	鯨川町
00486	不動産	実物	鯨川町の「寺」	鯨川町
00490	不動産	実物	太鼓橋	新地町
00492	不動産	実物	澄源庵	南浜町
00494	不動産	実物	関川商店の桜	姥神町
00514	不動産	実物	旧二葉旅館	新地町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00523	不動産	実物	江差カトリック教会	茂尻町
00528	不動産	実物	越中谷馬具店	愛宕町
00533	不動産	実物	八大龍王神八江聖団の鳥居	南が丘
00537	不動産	実物	五勝手屋	本町
00554	不動産	実物	かあちゃん食堂	愛宕町
00557	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00558	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00559	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00560	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00561	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00562	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00563	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00564	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00565	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00566	不動産	実物	クロマツ	緑丘
00567	不動産	実物	イチョウ	本町
00568	不動産	実物	イチョウ	本町
00569	不動産	実物	クロマツ	本町
00570	不動産	実物	アカマツ	本町
00571	不動産	実物	イチョウ	本町
00572	不動産	実物	ウメ	本町
00573	不動産	実物	クロマツ	本町
00574	不動産	実物	イチョウ	本町
00575	不動産	実物	クロマツ	本町
00576	不動産	実物	ウメ	本町
00577	不動産	実物	クロマツ	本町
00578	不動産	実物	イチョウ	本町
00579	不動産	実物	カイツカイブキ	本町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00580	不動産	実物	クロマツ	本町
00581	不動産	実物	クロマツ	本町
00582	不動産	実物	イチイ	本町
00583	不動産	実物	メタセコイヤ	本町
00584	不動産	実物	クロマツ	本町
00585	不動産	実物	ナシ	本町
00586	不動産	実物	マサキ	姥神町
00587	不動産	実物	マサキ	姥神町
00588	不動産	実物	マサキ	姥神町
00589	不動産	実物	マサキ	姥神町
00590	不動産	実物	ウメ	姥神町
00591	不動産	実物	クロマツ	姥神町
00592	不動産	実物	クロマツ	姥神町
00593	不動産	実物	クロマツ	豊川町
00594	不動産	実物	ケヤキ	豊川町
00595	不動産	実物	モミ	豊川町
00596	不動産	実物	モミ	豊川町
00597	不動産	実物	モミ	豊川町
00598	不動産	実物	モミ	豊川町
00599	不動産	実物	モミ	豊川町
00600	不動産	実物	ウメ	豊川町
00601	不動産	実物	イチョウ	豊川町
00602	不動産	実物	シダレサクラ	檜岱
00603	不動産	実物	クロマツ	中歌町
00604	不動産	実物	クロマツ	中歌町
00605	不動産	実物	イタヤ	水堀町
00606	不動産	実物	イタヤ	水堀町
00607	不動産	実物	イタヤ	水堀町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00608	不動産	実物	イタヤ	水堀町
00609	不動産	実物	イタヤ	水堀町
00610	不動産	実物	サワグルミ	小黒部町
00611	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00612	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00613	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00614	不動産	実物	サワグルミ	小黒部町
00615	不動産	実物	イチイ	小黒部町
00616	不動産	実物	サワグルミ	小黒部町
00617	不動産	実物	ハルニレ	小黒部町
00618	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00619	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00620	不動産	実物	ヤチダモ	小黒部町
00621	不動産	実物	ヤチダモ	小黒部町
00622	不動産	実物	トチ	小黒部町
00623	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00624	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00625	不動産	実物	ブナ	小黒部町
00626	不動産	実物	シナ	小黒部町
00627	不動産	実物	シナ	小黒部町
00628	不動産	実物	ヤチダモ	小黒部町
00629	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00630	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00631	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00632	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00633	不動産	実物	イタヤ	小黒部町
00634	不動産	実物	ヤチダモ	越前町
00652	不動産	実物	法華寺のしだれ桜	本町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00653	不動産	実物	南無妙法蓮華經の碑	本町
00654	不動産	実物	庚申塔	陣屋町
00665	不動産	実物	江差八勝の石碑	中歌町
00670	不動産	実物	慶喜の松	五厘沢町
00671	不動産	実物	白色凝灰岩	五厘沢町
00673	不動産	実物	大山神社の狛犬	鹹川町
00678	不動産	実物	逆川公園の桜	鹹川町
00688	不動産	実物	立岩	不特定
00689	不動産	実物	馬頭観世音の碑	南浜町
00690	不動産	実物	故桑島流信先生の碑	南浜町
00691	不動産	実物	如意輪観音像	本町
00692	不動産	実物	十一面観音像	本町
00693	不動産	実物	妙法蓮華經千部供養書写の碑	本町
00694	不動産	実物	御神灯の碑	本町
00695	不動産	実物	諸神霊の碑	本町
00696	不動産	実物	三上超順の墓	本町
00698	不動産	実物	豊丘大神の鳥居	越前町
00699	不動産	実物	豊丘大神の碑	越前町
00700	不動産	実物	豊丘大神の石灯籠	越前町
00701	不動産	実物	豊丘大神の鳥居	越前町
00702	不動産	実物	薬師堂	尾山町
00703	不動産	実物	平島	不特定
00704	不動産	実物	龍王神社	泊町
00706	不動産	実物	金剛寺石仏	中歌町
00707	不動産	実物	金剛寺石仏	中歌町
00708	不動産	実物	笹山稻荷神社の鳥居	笹山
00709	不動産	実物	笹山稻荷神社の石碑	笹山
00710	不動産	実物	佐田吉稻荷大神	笹山

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00711	不動産	実物	大石大神	笹山
00712	不動産	実物	笹山長八大神	笹山
00713	不動産	実物	笹山稲荷神社	東山
00714	不動産	実物	江差八勝愛宕観欄詠歌の地の碑	東山
00716	不動産	実物	笏谷石の階段	本町
00717	不動産	実物	十和田神社	笹山
00718	不動産	実物	お穴	笹山
00719	不動産	実物	水汲み場の岩	笹山
00720	不動産	実物	水汲み場	笹山

【資料7】収集した「江差のお宝」

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00002	不動産	空間	ヒノキアスナロ及びアオトドマツ自生地	椴川町
00041	不動産	空間	新政府軍の墓地	本町
00042	不動産	空間	テカエシ台場	鷗島
00043	不動産	空間	北前船が係船した跡	鷗島
00045	不動産	空間	キネツカ台場	鷗島
00046	不動産	空間	鷗島	鷗島
00047	不動産	空間	にしん粕の干場	不特定
00048	不動産	空間	いにしえ街道	津花町, 姥神町, 中歌町
00083	不動産	空間	繁次郎浜	田沢町, 尾山町
00084	不動産	空間	五勝手地区から上ノ国町へ続く砂浜	不特定
00090	不動産	空間	馬坂のアカシヤ並木	姥神町, 本町
00094	不動産	空間	町民の森の孟宗竹林	桧岱
00097	不動産	空間	町民の森	桧岱
00101	不動産	空間	蝦夷館遺跡の桜	東山
00104	不動産	空間	逆川公園	鯨川町
00164	不動産	空間	弁慶の足跡	鷗島
00180	不動産	空間	井越掘	小黒部町
00192	不動産	空間	砂坂砂防林	水堀町
00247	不動産	空間	「岩崎の岩」の跡	姥神町
00266	不動産	空間	伝 汐見亭跡	鷗島
00267	不動産	空間	階段跡	鷗島
00268	不動産	空間	鳥居柱の跡	鷗島
00269	不動産	空間	遊歩道脇の横穴	鷗島
00337	不動産	空間	九艘川公園	中歌町
00340	不動産	空間	法華寺坂	姥神町
00341	不動産	空間	能登屋の坂	姥神町, 上野町
00342	不動産	空間	イチカネジョウ小路	姥神町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00343	不動産	空間	ワドオシの小路	姥神町
00344	不動産	空間	折居社跡	姥神町
00352	不動産	空間	馬坂	中歌町, 姥神町, 本町
00353	不動産	空間	阿弥陀寺坂	不特定
00354	不動産	空間	切石坂	姥神町, 津花町, 上野町, 橋本町
00356	不動産	空間	千畳敷の柱穴	鷗島
00357	不動産	空間	エンカマ	鷗島
00372	不動産	空間	ゆが	鯨川町
00373	不動産	空間	大谷地	朝日町
00374	不動産	空間	浜名道路	朝日町, 鯨川町
00375	不動産	空間	ガンケ道路	朝日町, 鯨川町
00376	不動産	空間	問屋道路	越前町
00377	不動産	空間	昭和道路	中網町
00378	不動産	空間	土場	柳崎町
00379	不動産	空間	川袋	柳崎町
00393	不動産	空間	いにしえ街道に残る土蔵群	中歌町, 姥神町, 津花町
00398	不動産	空間	津花の旧道	津花町
00399	不動産	空間	碓町	陣屋町
00401	不動産	空間	海岸町から見る夕陽	海岸町
00407	不動産	空間	沖ノ口役所跡	津花町
00416	不動産	空間	千畳敷	鷗島
00418	不動産	空間	五厘沢A遺跡	五厘沢町
00419	不動産	空間	茂尻A遺跡	茂尻町
00420	不動産	空間	五厘沢B遺跡	五厘沢町
00421	不動産	空間	茂尻B遺跡	茂尻町
00422	不動産	空間	茂尻C遺跡	茂尻町
00423	不動産	空間	椴川A遺跡	椴川町
00424	不動産	空間	椴川B遺跡	椴川町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00425	不動産	空間	楯川C遺跡	楯川町
00426	不動産	空間	柏町遺跡	柏町
00427	不動産	空間	寺小町遺跡	南浜町
00428	不動産	空間	緑丘遺跡	緑丘
00429	不動産	空間	馬場遺跡	桧岱
00430	不動産	空間	鷗島遺跡	鷗島
00431	不動産	空間	中歌遺跡	中歌町
00432	不動産	空間	新栄町遺跡	新栄町
00433	不動産	空間	蝦夷館遺跡	東山
00434	不動産	空間	東山遺跡	東山
00435	不動産	空間	泊館跡	泊町
00436	不動産	空間	泊A遺跡	泊町
00437	不動産	空間	泊B遺跡	泊町
00438	不動産	空間	尾山遺跡	尾山町
00439	不動産	空間	田沢遺跡	田沢町
00440	不動産	空間	伏木戸遺跡	伏木戸町
00441	不動産	空間	田沢野遺跡	伏木戸町
00442	不動産	空間	馬窪野遺跡	柳崎町
00443	不動産	空間	川尻遺跡	柳崎町
00444	不動産	空間	砂坂遺跡	水堀町
00445	不動産	空間	夕コ穴遺跡	五厘沢町
00446	不動産	空間	五厘沢4遺跡	五厘沢町
00447	不動産	空間	山崎遺跡	鯨川町
00448	不動産	空間	鯨川遺跡	鯨川町
00449	不動産	空間	越前遺跡	鯨川町
00450	不動産	空間	大谷地遺跡	鯨川町
00451	不動産	空間	小黒部遺跡	小黒部町
00452	不動産	空間	法花寺坂貝塚	本町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00453	不動産	空間	豊川町遺跡	豊川町
00454	不動産	空間	小黒部2遺跡	小黒部町
00455	不動産	空間	柳崎2遺跡	柳崎町
00456	不動産	空間	五厘沢C遺跡	五厘沢町
00457	不動産	空間	五厘沢D遺跡	五厘沢町
00458	不動産	空間	五厘沢E遺跡	五厘沢町
00459	不動産	空間	五厘沢F遺跡	五厘沢町
00460	不動産	空間	五厘沢G遺跡	五厘沢町
00461	不動産	空間	五厘沢H遺跡	五厘沢町
00462	不動産	空間	五厘沢I遺跡	五厘沢町
00463	不動産	空間	五厘沢J遺跡	五厘沢町
00464	不動産	空間	五厘沢K遺跡	五厘沢町
00465	不動産	空間	下小黒部遺跡	越前町
00466	不動産	空間	小黒部3遺跡	朝日町
00467	不動産	空間	柳崎遺跡	柳崎町
00468	不動産	空間	鹹川西遺跡	越前町
00469	不動産	空間	伏木戸2遺跡	伏木戸町
00470	不動産	空間	伏木戸3遺跡	伏木戸町
00471	不動産	空間	田沢2遺跡	田沢町
00472	不動産	空間	泊3遺跡	泊町
00473	不動産	空間	泊4遺跡	泊町
00474	不動産	空間	泊5遺跡	泊町
00475	不動産	空間	泊6遺跡	尾山町
00476	不動産	空間	泊7遺跡	泊町
00477	不動産	空間	泊8遺跡	大澗町
00478	不動産	空間	柳崎3遺跡	柳崎町
00479	不動産	空間	榎川D遺跡	榎川町
00489	不動産	空間	蔦谷の沢	新地町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00499	不動産	空間	北前坂	姥神町, 上野町, 橋本町
00501	不動産	空間	いにしえ街道と国道をつなぐいくつもの小路	中歌町, 姥神町, 津花町
00503	不動産	空間	奉行坂	中歌町, 本町
00506	不動産	空間	田沢町の首切り場	田沢町
00507	不動産	空間	松の岱から樋の沢へ抜ける道	中歌町, 本町, 緑丘
00520	不動産	空間	豊部内川	不特定
00522	不動産	空間	蝦夷館公園	豊川町
00524	不動産	空間	五勝手漁港の海底にある掘り込んだ道	南浜町
00525	不動産	空間	遊郭跡	新地町
00534	不動産	空間	法華寺通り商店街	本町
00547	不動産	空間	愛宕町の町並み	愛宕町
00644	不動産	空間	明治42年に行われた師匠会議の場	愛宕町
00669	不動産	空間	田沢町から柳崎町へ続く砂浜	不特定
00697	不動産	空間	古川	越前町

【資料7】収集した「江差のお宝」

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00007	動産	有形	松寶丸	陣屋町
00008	動産	有形	神功山	愛宕町
00016	動産	有形	観音寺の円空仏	泊町
00017	動産	有形	柏森神社の円空仏	柏町
00018	動産	有形	岩城神社の円空仏	尾山町
00022	動産	有形	金剛寺の木喰仏	中歌町
00023	動産	有形	観音寺の木喰仏	泊町
00024	動産	有形	江差八勝の額（第1回）	姥神町
00025	動産	有形	「隆民殿」の額	姥神町
00029	動産	有形	開陽丸の遺物	姥神町
00031	動産	有形	船絵馬	陣屋町
00032	動産	有形	姥神大神宮の船絵馬	姥神町
00033	動産	有形	蛭子山	中歌町
00034	動産	有形	豊年山	姥神町
00035	動産	有形	聖武山	橋本町
00055	動産	有形	ジャガイモ	不特定
00063	動産	有形	かたこもち	不特定
00064	動産	有形	こうれん	不特定
00065	動産	有形	五勝手屋羊羹	不特定
00067	動産	有形	江差焼	柏町
00080	動産	有形	竹細工	姥神町
00105	動産	有形	にしん蕎麦	不特定
00106	動産	有形	カモメ	不特定
00109	動産	有形	こうれんを製作する道具	不特定
00110	動産	有形	笹餅	不特定
00111	動産	有形	しとぎ	不特定
00112	動産	有形	ふろしき餅	不特定

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00113	動産	有形	ふきんこ汁	不特定
00114	動産	有形	つぼっこ汁	不特定
00115	動産	有形	芋団子汁	不特定
00116	動産	有形	三平汁	不特定
00117	動産	有形	鯨汁	不特定
00118	動産	有形	八杯汁	不特定
00119	動産	有形	呉汁	不特定
00120	動産	有形	おかゆ	不特定
00121	動産	有形	煮しめ	不特定
00122	動産	有形	素麺	不特定
00123	動産	有形	赤飯	不特定
00124	動産	有形	黒飯	不特定
00125	動産	有形	おこわ	不特定
00126	動産	有形	豆漬け	不特定
00127	動産	有形	糠漬け	不特定
00128	動産	有形	かぶ漬け	不特定
00129	動産	有形	キュウリ漬け	不特定
00130	動産	有形	大根漬け	不特定
00131	動産	有形	フキ漬け	不特定
00132	動産	有形	にしん漬け	不特定
00133	動産	有形	魚漬け	不特定
00134	動産	有形	飯寿司	不特定
00135	動産	有形	正月の繭玉	不特定
00137	動産	有形	しめ縄	不特定
00139	動産	有形	どぶろく	不特定
00143	動産	有形	豆餅	不特定
00144	動産	有形	塩引き鮭	不特定
00145	動産	有形	黒豆	不特定

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00146	動産	有形	口取り	不特定
00147	動産	有形	ジャガイモの塩煮	不特定
00155	動産	有形	新栄山	新栄町
00156	動産	有形	豊栄山	豊川町
00157	動産	有形	楠公山	津花町
00158	動産	有形	譽山	茂尻町
00159	動産	有形	義公山	南浜町, 柏町
00160	動産	有形	源氏山	上野町
00161	動産	有形	清正山	本町
00162	動産	有形	政宗山	新地町, 円山町, 緑丘
00163	動産	有形	恵比須山	大濶町
00165	動産	有形	桐細工	不特定
00177	動産	有形	大黒山	小黒部町
00187	動産	有形	稻荷山	水堀町
00195	動産	有形	八幡山	柳崎町
00201	動産	有形	八幡神社鳥居に飾る注連縄	柳崎町
00206	動産	有形	龍神山	田沢町
00213	動産	有形	隆政山	尾山町
00215	動産	有形	隆政山の歴代面相	尾山町
00216	動産	有形	岩城神社の祭神像	尾山町
00224	動産	有形	愛宕山の人形	愛宕町
00237	動産	有形	清水谷公考の和歌の軸	姥神町
00242	動産	有形	折居伝説の絵巻	姥神町
00243	動産	有形	折居伝説の絵画	姥神町
00289	動産	有形	クマ	不特定
00290	動産	有形	シカ	不特定
00291	動産	有形	岩海苔	不特定
00296	動産	有形	鉢植えにしたヒノキアスナロ	不特定

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00298	動産	有形	西海谷北龍作の像	不特定
00301	動産	有形	かたこもちの型	不特定
00302	動産	有形	サケ	不特定
00304	動産	有形	イカ	不特定
00306	動産	有形	蕎麦	不特定
00307	動産	有形	イカ刺し	不特定
00311	動産	有形	イカのごろ煮	不特定
00351	動産	有形	江差屏風	不特定
00355	動産	有形	榎川式土器	榎川町
00363	動産	有形	井越早稲	不特定
00365	動産	有形	イカの上三升漬け	不特定
00366	動産	有形	ほっけのすり身汁	不特定
00367	動産	有形	旨煮	不特定
00368	動産	有形	ゴッコのとも和え	不特定
00369	動産	有形	カスベの煮付け	不特定
00370	動産	有形	にしんの茹で煮	不特定
00371	動産	有形	シャギリ山	不特定
00380	動産	有形	コジャクの漬物	不特定
00386	動産	有形	にしん	不特定
00388	動産	有形	けいらん	不特定
00389	動産	有形	茶房せきかわの看板	中歌町
00390	動産	有形	ごっこ汁	不特定
00395	動産	有形	三平皿	不特定
00400	動産	有形	すももの塩漬け	不特定
00406	動産	有形	ホッケの切り込み	不特定
00413	動産	有形	ほっけのすり身汁	不特定
00483	動産	有形	馬頭観音菩薩像	柏町
00487	動産	有形	鯨川町の「寺」の鐘	鯨川町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00488	動産	有形	鹹川町の「寺」の仏像群	鹹川町
00491	動産	有形	かぶし汁	不特定
00493	動産	有形	俳句結社霰庵に関する古文書	不特定
00495	動産	有形	関川家の古文書	中歌町
00497	動産	有形	横山家のにしん蕎麦	姥神町
00498	動産	有形	祭礼時の素麺	不特定
00510	動産	有形	江差追分人形	不特定
00513	動産	有形	鯨漁労の道具	不特定
00518	動産	有形	にしんの切り込み	不特定
00519	動産	有形	かぼちゃ団子	不特定
00542	動産	有形	さと水の棒めし	新地町
00543	動産	有形	アワビ	不特定
00548	動産	有形	法華寺の絵や軸	本町
00549	動産	有形	紅ズワイガニ	不特定
00550	動産	有形	海苔ごはん	不特定
00552	動産	有形	江差塗り	姥神町
00555	動産	有形	江差草	不特定
00556	動産	有形	文芸誌「えさし草」	不特定
00635	動産	有形	正調江差追分節基本譜	不特定
00636	動産	有形	近江タキ氏愛用の三味線	中歌町
00640	動産	有形	小路豊太郎氏愛用の尺八	中歌町
00645	動産	有形	江差追分文庫	中歌町
00646	動産	有形	飯島コレクションのレコード	中歌町
00647	動産	有形	「軍中見聞記」	中歌町
00655	動産	有形	船絵馬	陣屋町
00658	動産	有形	ヒノキアスナロ	不特定
00659	動産	有形	姥神大神宮が「正一位」の位を賜った古文書	姥神町
00660	動産	有形	姥神大神宮が「大神宮」号を賜った古文書	姥神町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00661	動産	有形	姥神大神宮の勅宣額	姥神町
00663	動産	有形	姥神大神宮棟札	姥神町
00664	動産	有形	伝青葉の笛	姥神町
00666	動産	有形	かもめ島全景の図（山田東洋画）	姥神町
00667	動産	有形	姥神大神宮伝承神楽の獅子頭	姥神町
00668	動産	有形	姥神大神宮伝承神楽の面	姥神町
00672	動産	有形	米や豆の「ニオ」	不特定
00677	動産	有形	榎本武揚の手紙	中歌町
00680	動産	有形	江差八勝の屏風（第2回）	水堀町
00681	動産	有形	江差八勝の額（第3回）	姥神町
00682	動産	有形	観音寺の俳句額	泊町
00684	動産	有形	北前船交易に関する古文書	不特定
00686	動産	有形	大鳥圭介の書	姥神町
00687	動産	有形	榎本武揚の書	姥神町
00705	動産	有形	浜田松鶴作の江差追分譜	不特定
00721	動産	有形	にしん幟	不特定

【資料7】収集した「江差のお宝」

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00009	動産	無形	江差沖揚音頭	柏町, 南浜町
00010	動産	無形	五勝手鹿子舞	柏町, 南浜町
00011	動産	無形	江差追分	不特定
00012	動産	無形	江差三下り	不特定
00013	動産	無形	江差餅つき囃子	豊川町
00036	動産	無形	土場鹿子舞	柳崎町
00037	動産	無形	田沢鹿子舞	田沢町
00038	動産	無形	江差鹿子舞	豊川町
00039	動産	無形	江差鮫踊り	柏町, 南浜町
00040	動産	無形	江差追分踊り	不特定
00049	動産	無形	イカ刺し祭り	姥神町
00050	動産	無形	きれいな海	不特定
00051	動産	無形	鷗島に沈む夕陽	不特定
00052	動産	無形	漁火	不特定
00054	動産	無形	風車の見える風景	不特定
00056	動産	無形	繁次郎話し	不特定
00060	動産	無形	江差追分会館での実演	中歌町
00062	動産	無形	夕陽	不特定
00066	動産	無形	姥神大神宮渡御祭の切り声	不特定
00069	動産	無形	北前船	不特定
00070	動産	無形	郡役所から見る江差	中歌町
00072	動産	無形	姥神大神宮渡御祭	不特定
00073	動産	無形	夜市	本町
00074	動産	無形	伏木戸地区から見る江差の町と海	伏木戸町
00075	動産	無形	江差追分が流れる街並	不特定
00076	動産	無形	各施設の案内人	不特定
00077	動産	無形	朝イカ売り	不特定

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00078	動産	無形	瓶子岩のしめ縄緋え	鷗島
00079	動産	無形	法華寺から見る夕陽	本町
00085	動産	無形	江差陶石研究会	柏町
00086	動産	無形	田沢町から見る江差の風景	田沢町
00089	動産	無形	人形師	中歌町
00091	動産	無形	冬囲いの製作技術	不特定
00092	動産	無形	たば風	不特定
00098	動産	無形	リンドウの栽培	不特定
00099	動産	無形	厚沢部川流域の田園風景	不特定
00100	動産	無形	民俗芸能	不特定
00102	動産	無形	夕陽に映えるフェリー	不特定
00103	動産	無形	津花館から見る風景	橋本町
00107	動産	無形	奥尻島に沈む夕陽	不特定
00108	動産	無形	こうれんの製作技術	不特定
00136	動産	無形	正月の繭玉作りの技術	不特定
00138	動産	無形	しめ縄作りの技術	不特定
00140	動産	無形	竹スキー遊び	不特定
00141	動産	無形	竹スキーを製作する技術	不特定
00148	動産	無形	轆馬	不特定
00149	動産	無形	お祭の出店	不特定
00150	動産	無形	盆踊り	不特定
00151	動産	無形	運動会	不特定
00152	動産	無形	学芸会	不特定
00153	動産	無形	鷗島での遊び	鷗島
00154	動産	無形	鷗島での花火	鷗島
00166	動産	無形	桐細工の職人	不特定
00173	動産	無形	若宮神社の祭礼	小黒部町
00174	動産	無形	若宮神社祭礼の大黒山巡行	小黒部町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00175	動産	無形	水堀稻荷神社祭礼の稻荷山巡行	水堀町
00176	動産	無形	大黒山巡行時の餅つき	小黒部町
00185	動産	無形	水堀稻荷神社の祭礼	水堀町
00194	動産	無形	八幡神社の祭礼	柳崎町
00196	動産	無形	八幡神社祭礼の八幡山巡行	柳崎町
00199	動産	無形	柳崎地藏堂の涅槃会	柳崎町
00200	動産	無形	柳崎地藏堂の灌仏会	柳崎町
00202	動産	無形	八幡神社鳥居に飾る注連縄の製作技術	柳崎町
00205	動産	無形	田沢稻荷神社の祭礼	田沢町
00212	動産	無形	岩城神社の祭礼	尾山町
00214	動産	無形	龍神山と隆政山の巡行	田沢町, 尾山町
00221	動産	無形	大潤稻荷神社の祭礼	大潤町
00223	動産	無形	愛宕神社の祭礼	愛宕町
00227	動産	無形	豊川神社の祭礼	豊川町
00251	動産	無形	檜山護国神社の祭礼	本町
00276	動産	無形	かもめ島まつり	鷗島
00287	動産	無形	柏森神社祭礼	柏町
00292	動産	無形	巖島神社祭礼の海上渡御	鷗島
00294	動産	無形	笹山稻荷神社の祭礼	笹山
00295	動産	無形	三十三観音巡り	不特定
00297	動産	無形	家印	不特定
00299	動産	無形	義経と弁慶の伝説	鷗島
00300	動産	無形	小山隆政の伝説	尾山町
00303	動産	無形	イチゴの栽培	不特定
00305	動産	無形	産業まつり	不特定
00308	動産	無形	ゴミ収集車から流れる江差追分	不特定
00309	動産	無形	かたこもちの製作技術	不特定
00310	動産	無形	船魂祭	鷗島

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00347	動産	無形	笹山・元山風景林	不特定
00348	動産	無形	能登会	不特定
00349	動産	無形	鯨労働	不特定
00350	動産	無形	群来	不特定
00358	動産	無形	義経伝説	鷗島
00360	動産	無形	大蛸伝説	鷗島
00382	動産	無形	鷗島から見る江差	鷗島
00383	動産	無形	ひな語り	不特定
00384	動産	無形	花嫁行列	中歌町, 姥神町
00385	動産	無形	百人の語り部	不特定
00394	動産	無形	漁火	不特定
00396	動産	無形	冬の日本海の波の音	不特定
00402	動産	無形	ヤツメウナギ	不特定
00403	動産	無形	モクズガニ	不特定
00404	動産	無形	モクズガニ漁	不特定
00412	動産	無形	伏木戸町から見る夕陽	伏木戸町
00414	動産	無形	百人一首	不特定
00415	動産	無形	江差馬子唄	不特定
00496	動産	無形	折居伝説	不特定
00500	動産	無形	坂の町	不特定
00502	動産	無形	奴行列	不特定
00504	動産	無形	田沢町の三世代交流会	田沢町
00505	動産	無形	江差追分の唄心	不特定
00508	動産	無形	ヒバの森づくり	不特定
00509	動産	無形	北前船交易がもたらした料理	不特定
00511	動産	無形	姥神大神宮渡御祭の囃子	不特定
00512	動産	無形	家印で呼び合う慣習	不特定
00515	動産	無形	姥神大神宮渡御祭時に帰省する人々	不特定

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00516	動産	無形	横山家のご主人のかたり	姥神町
00517	動産	無形	対鷗館から聞こえる三味線の音	上野町
00526	動産	無形	愛宕山から見る景色	愛宕町
00527	動産	無形	江差追分の詰木石節	不特定
00529	動産	無形	北前坂からの眺め	不特定
00530	動産	無形	真宗大谷派江差別院から見る夕陽	中歌町
00531	動産	無形	汐の香り	不特定
00532	動産	無形	姥神大神宮渡御祭の囃子練習	不特定
00535	動産	無形	フェリーから見る江差	不特定
00536	動産	無形	柳崎町の夜のイルミネーション	不特定
00538	動産	無形	江差追分の新地節	不特定
00539	動産	無形	江差追分の浜小屋節	不特定
00540	動産	無形	江差追分を唄う光景	不特定
00541	動産	無形	新鮮朝市	姥神町
00544	動産	無形	地吹雪	不特定
00546	動産	無形	愛宕町から見る江差と鷗島の夜景	愛宕町
00551	動産	無形	町中のアジサイ	不特定
00553	動産	無形	江差塗りの製作技術	姥神町
00637	動産	無形	江差追分の三味線の継承	不特定
00638	動産	無形	江差追分の尺八の継承	不特定
00639	動産	無形	江差追分全国大会	茂尻町
00641	動産	無形	第1回全国大会優勝者の近江八声氏	姥神町
00642	動産	無形	江差追分会	中歌町
00643	動産	無形	佐之市の法要	中歌町
00648	動産	無形	姥神大神宮の伝承神楽	姥神町
00649	動産	無形	五勝手鹿子舞の用具製作技術	柏町, 南浜町
00650	動産	無形	田沢鹿子舞の用具製作技術	田沢町
00651	動産	無形	土場鹿子舞の用具製作技術	柳崎町

No.	大分類	小分類	名称	所在地
00656	動産	無形	繁次郎話しを語る人	不特定
00657	動産	無形	巖島神社の祭礼	鷗島
00662	動産	無形	姥神大神宮の神輿	姥神町
00674	動産	無形	馬の飼育	不特定
00675	動産	無形	牛の飼育	不特定
00676	動産	無形	大根干しの風景	不特定
00679	動産	無形	江差弁	不特定
00683	動産	無形	「江差町民の歌」	不特定
00685	動産	無形	郷土芸能伝承まつり	不特定
00715	動産	無形	歴まちのだいどこ市	姥神町

「江差町歴史文化基本構想」

平成29年3月31日

発行：江差町

編集：江差町歴史文化基本構想策定委員会／江差町教育委員会

〒043-8560 北海道檜山郡江差町字中歌町 193-1

TEL 0139-52-1047

FAX 0139-52-0234